

北信地区社会教育委員連絡協議会活動情報誌

地域・人・かかわりを求めて

第38集



令和6年度

北信地区社会教育委員連絡協議会

Vol.38 目次

- 発刊のあいさつ 会長 羽田 吉彦(山ノ内町) …1
- I 北信地区社会教育委員連絡協議会 1年間の歩み …2
- II 研修会の記録
- 1 令和6年度北信地区社会教育委員連絡協議会総会・地区研修会感想のまとめ …4
 - 2 CSに関わる地域・行政のためのスキルアップ研修会感想のまとめ …7
 - 3 地域ぐるみの共育フォーラム(兼:北信地区社会教育研究大会)感想のまとめ …10
 - 4 令和6年度長野県社会教育研究大会 …14 ・第3分科会資料
長野県社会教育研究大会に参加して …22 副会長 小林 京子(千曲市)
 - 5 第55回関東甲信越静社会教育研究大会に参加して …23 事務局 菅原 勇介
- III 市町村社会教育委員連絡協議会の活動の様子
- 長野市…29 須坂市…33 中野市…36 飯山市…38 千曲市…40 坂城町…43
小布施町…45 高山村…48 山ノ内町…50 木島平村…52 野沢温泉村…54
信濃町…56 飯綱町…57 小川村…59 栄村…61
- IV 北信地区社会教育委員連絡協議会 事務局長から …62
- V 北信地区社会教育委員連絡協議会会則 …63
- VI 北信地区社会教育委員名簿 …64
- あとがき 副会長 吉澤 順子(長野市) …65

北信地区社会教育委員連絡協議会
会長 羽田吉彦(山ノ内町)

昨年は1月1日の能登半島の大地震で始まった一年でした。教育事務所の先生方も県からの要請で現地での支援活動に携わったと聞きました。その後、水害にも見舞われ二回の大変な被害を受け、復興はまだまだ道半ばです。1日も早く以前の生活を取り戻すことができるよう願っています。

一年の活動のスタートは4月10日の理事会でした。第2回は9月4日(オンライン)。第3回は1月31日千曲市で開催、地区研修は市内の児童養護施設を見学しました。

北信地区としての事業は以下の3つでした。

・CSに関わる地域・行政のためのスキルアップ研修会

5月28日長野合同庁舎において開催されました。前年に続いて社会教育委員の参加は2回目でした。講師には福島県檜葉町からCSマイスターの猿渡智衛氏を迎えました。放課後をいかした地域学校協働活動に焦点を当てた内容で、参加者には大好評でした

・地区総会・地区研修会

5月16日に信濃町総合会館において開催しました。総会では一年の計画と予算を了承いただき、地区研修会では、信濃町の二本松委員から「コロナ後の活動」、風間さんから「登山を通じた人との関わり」の2つの事例を学びました。続いてグループ討議も行い、半日ではありましたが充実した研修となりました。

・地域ぐるみの共育フォーラム(北信地区社会教育研究大会)

10月19日に北信地区社会教育研究大会を兼ねて、須坂市旧上高井郡役所で開催されました。こどもヘンテコまほうラボ所長、島崎直也(なおやマン)氏から「こどもたちの力を生かす環境づくり」と題した講演をしていただきました。後半の分科会は、「家でも学校でもないユースセンターという居場所の持つ可能性」(千曲市)、「住民全体でつくる生涯にわたって安心してらせる地域」(須坂市)、「夏休みの子どもの居場所と活動づくり」(千曲市)でした。それぞれの分科会の発表に携わった皆さんに感謝いたします。

また、県の社会教育研究大会は9月11日に行われ、第3分科会において中野市社会教育委員 増田正明さんと阿部恵子さんから「生き生きと輝く若者たち～青少年・若者の孤独・孤立にかかわる問題について～」と題した事例発表をいただきました。大変ご苦勞様でした。

私たちは普段それぞれの人が、やれる範囲で、出来ることをして、地域の繋がりや豊かさに貢献しようと活動しています。その分野は広くその人によって様々です。社会教育委員の仕事はその広さゆえに、理解しにくく、そして捉えにくいものかもしれません。どんな活動であっても必ず地域や社会に貢献していると私は信じています。

過去30年近く、ずっと変わらなかったこの国のモノの値段がここ2~3年急に上がっています。私たちの活動にも影響がありそうで気になります。私がまだ学生だった40~50年前はもっと上昇していたように思いますが、その頃は収入も増えていて、国全体が右肩上がりでした。でも、今はずいぶん様子が違っています。このような社会状況の中で私たちに求められるものも、少しずつ変わっていくのではないのでしょうか。

そんな時、社会教育委員の皆さんが様々な場で体験する、学びや他の地域の活動が、ヒントや活力となってくれることを願っています。

I 令和6年度北信地区社会教育委員連絡協議会 1年間の歩み

1 長野県社会教育委員連絡協議会総会 6月12日(水) 於:長野県総合教育センター

- (1) 県表彰 1名が受賞 山崎 弘幸 さん(坂城町)
- (2) 総会議事 令和5年度事業・決算報告
令和6年度事業計画(案)・予算(案)
- (3) 講演会 演題「地域づくりと住民の学習」
講師 松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科
准教授 向井 健 氏(オンラインでの講演)

2 北信地区社会教育委員連絡協議会 定期総会・地区研修会

5月16日(木) 於:信濃町総合会館

- (1) 総会議事など
令和5年度事業・決算報告 令和6年度事業計画(案)・予算(案)
監査員の選出
- (2) 地区研修会
 - ①信濃町社会教育委員 二本松三雄さんの発表「コロナ後の活動について」
風間 純子さんの発表「登山をとおした人との関わり」
 - ②少人数グループでの情報交換会



3 長野県社会教育研究大会 9月11日(水)

於:長野県総合教育センター 15市町村56名参加申し込み
全体会

- 阿南町(飯伊地区社会教育委員連絡協議会)
「自分たちで見つめ直す地域資源の魅力」
- 大町市(中信地区社会教育委員連絡協議会)
「社会教育委員の地域へのかかわり方」

分科会

- 小海町社会教育委員連絡協議会(佐久地区・上小地区社会教育委員連絡協議会)
「地域で紡ぐ 地域の歴史学習」 北信からの参加者 13名
- 茅野市社会教育委員連絡協議会(諏訪地区・上伊那地区社会教育委員連絡協議会)
「茅野市の社会教育委員の現状について」 北信からの参加者4名
- 中野市社会教育委員連絡協議会(北信地区社会教育委員連絡協議会)
「生き生きと輝く若者たち~青少年・若者の孤独・孤立に関わる問題について~」
北信からの参加者 30名 発表者:中野市社会教育委員 増田正明さん
阿部恵子さん
- 長野県社会教育委員連絡協議会理事会(県社会教育委員連絡協議会)
「語り合っていて見える!社会教育委員」 北信からの参加者9名



4 地域ぐるみの共育フォーラム【兼:北信地区社会教育研究大会】 10月19日(土)

旧上高井郡役所 90名参加

(1) 講演会 「こどもたちの力を活かす環境づくり」

こどもヘンテコまほうラボ代表

佐久大学 信州短期大学部 福祉学科 子ども福祉専攻 非常勤講師

軽井沢町社会教育委員

島崎 直也(なおやマン)さん

(2) 分科会

①「家でも学校でもないユースセンターという居場所のもつ可能性」

ユースセンター オレンジファミ(千曲市)代表 中島 壮太 さん

②「住民主体でつくる生涯にわたって安心してらせる地域」

旭ヶ丘地区生活たすけ合いの会 代表 丸山 栄三 さん

須坂市地域包括支援センター生活支援コーディネーター 加藤 光弘 さん

③「夏休みの子どもの居場所と活動づくり」

千曲市社会教育委員 小林京子 さん

5 CSに関わる地域・行政のためのスキルアップ研修会(社会教育委員理事研修会)

5月28日(火) 長野合同庁舎 37名参加

①長野県のコミュニティスクール推進事業について

県生涯学習課 油井 玲子 指導主事

②「多様な地域学校協働活動を通して地域づくりを進めよう!

～子どもの社会教育としてのポテンシャル～

福島県檜葉町教育委員会指導主事 CSマイスター 檜葉町地域学校協働センター長

猿渡 智衛 氏

6 北信地区社会教育委員連絡協議会 理事会(3回)

(1) 4月 10日(水)

事業報告・事業計画・予算案、県社会教育研究大会

総会・地区研修会の開催について 監査員候補の選出

地域ぐるみの共育フォーラム 情報交換会

(2) 9月 4日(水)

総会・地区研修会の反省

(オンライン開催)

県社会教育研究大会、地域ぐるみの共育フォーラム分担

活動情報誌の発行計画

(3) 1月 31日(金)

年間活動の反省 次年度の計画 事業・決算報告

(千曲市開催)

地域ぐるみの共育フォーラム反省

恵愛視察 情報交換会

7 正副会長会(2回)

(1) 8月 23日(金)

北信教育事務所 所内会議室

第2回理事会開催に向けた話し合い

(2) 1月 8日(水)

北信教育事務所 所内会議室

第3回理事会開催に向けた話し合い

8 活動情報誌第38集の発行(3月)

9 その他

Ⅱ 研修会の記録

1 令和6年北信地区社会教育委員連絡協議会総会・地区研修会

5月16日 信濃町総合会館

1 参加者数 72名（昨年度 69名）

2 参加者の声

【信濃町社会教育委員さんの発表から学んだこと・いかしたいこと】

- ・コロナ対応の難しさを考えました。
- ・二本松さんの発表は木島平村でも宿泊学習でコロナ前にやってお手伝いしたことがあります。スタッフを集めるのによく集まったと思いました。風間さんの発表からは、登山を通して達成感が味わえ、人と助け合いながらコミュニケーションが取れ、素晴らしいと思いました。木島平村ですが、通学合宿をしていましたが、やはり中止にしまいました。スタッフとして関わることは大変です。得ることも多かったように思います。また復活させたいと思います。風間さんの発表からは、私も子供たちと学校の行事として山に登っております。お話が私の活動とオーバーラップするところが多くそうだなあと思いながら聞きました。
- ・コロナ以前の活動発表でしたが、コロナ後の活動計画等が知りたいと思いました。がん患者が登山をする意味について、もっと説明があれば登山の意味がさらに理解できると思いました。通学合宿のことをもう少し詳しく聞いてみたいと思いました。
- ・通学合宿のスタッフの数に驚きました。また、5泊6日という長さにも驚きました。人と人とのつながりの強さがこの数になるのだと思います。地元の通学合宿に参加してみようと思いました。
- ・子どもたちの力を信じて励ますことの大切さを感じました。山登りの達成感の子供たちの自信になると思います。私も登山好きの父に育てられ、登山は良い思い出なので、サポート側になってみたいと思いました。
- ・信濃町としては通学合宿は大変な事業だと思いますが、コロナを乗り越えた後に再出発した信濃町の姿を見てみたいと思いました。
- ・コロナは活動に多大な影響があり、戻らないなと感じることがあります。
- ・活動されている方のパワーをいただいたなあと感じます。この中でできなくなってしまった事業でも、規模の縮小ややり方の工夫で開始することができ、地区を盛り上げていくことが必要だと感じました。
- ・通学合宿が5泊6日というのは画期的でした。コロナが明けても再開してほしいです。登山を通じた人との関わりも素敵なドラマを感じました。ボランティアに大学生16名と書いてありましたが、どのように集めたのかを知りたいと思いました。
- ・通学合宿立ち上げからの苦労話や断念との思いが参考になりました。町民とのふれあいも参考になりました。通学合宿を取り入れた活動は大変だが、有意義であると思いました。できれば私たちもやってみたいと思います。
- ・通学合宿というもの自体を初めて知りました。
- ・子供たちのために地域とどうつながるか参考になりました。行動力がすごいと思いました。まず、自分が動く周りの人に助けを求め、声をかける、とても勉強になりました。通学合宿の大切さを学ぶことができました。
- ・登山を通して人として達成感を味わうというのが素晴らしいと思いました。集団登山にもガン克服を願っているものがあることを初めて知りました。対象の人にとっての登山をイメージし、支援体制が組まれているのだと思います。

- ・数名は登れないのが当たり前ではなく、その人と一緒に基本だと改めて感じました。
- ・自分の得意なことを活動に生かしているというところがまだ勉強になりました。
- ・一度止まった事業を再開する難しさを感じました。山に登るということが、これほど大きな意味があるのかと感じました。人とのつながりを復活させるということが大事だと思いました。
- ・通学合宿で子供達のコミュニケーションを育てる活動は素晴らしいと感じました。子供達自身の自炊なども考えられたらどうでしょうか。
- ・社会教育委員としてだけでなく、ご自身の生き方として何か人の役にたちたいという温かさが伝わってまいりました。
- ・登山を通じて達成感を得る事は、自信になり人生観を成長させると思います。素晴らしい活動ですね。

【情報交換会から学んだこと・いかしたいこと】

- ・いろいろな考えに触れいろいろな人と関わる必要性が話の中でわかりました。他の地区の取り組みを知ることができて良かったです。社会教育委員として自治体と協力していきたいと思っていますが、人と関わって楽しんでいけたらというふうに思っています。
- ・他の地区の方のお話を聞いたことが良かったです。またこんなことをしてみたいと思う気持ちが自分の中で再確認できました。それぞれの活動状況や悩みを意見交換で行き、非常に参考になりました。
- ・二本松さんが風間さんの発表をもとに様々な意見感想が出ました。とりとめのない話えをしたと思いますが、良い雰囲気でのこのような機会がとても大切なんだと感じました。ベテランの委員さんたちにいろいろなお話を聞けました。
- ・地域の行事に積極的に参加してみようと思いました。大変楽しくできました。話題の幅が広く、人とのコミュニケーションの大切さを感じました。
- ・情報交換がようやく戻ってきて、そのやり方を忘れていたような感じ。すらあります。このような機会を設定してもらえたことで、今後活かせると思いました。
- ・事務局同士で悩みを共有できて良かったです。
- ・委員として色々な悩みが聞けて良かったです。
- ・他の市町村の事務局さんも自分と同じく、社会教育をどうしていくのか悩んでいるというところが共感できました。北信地区のいろいろな人とおしゃべりすることができ、良かったです。
- ・いろいろな話題が出てとても良かったです。できるところから始めることが大切だと思いました。各地区の委員さんとの交流ができました。他の地区の活動が刺激的でした。
- ・あまり肩肘張らずできることをやればいとちょっと気が楽になりました。皆さんのやる気がすごいと思いました。
- ・通学合宿の大切な点を話し合うことができました。社会教育委員は人と人とのつながりが大切だと思いました。熱を持って地域で動きたいと思いました。
- ・今日はたくさんのお話を聞くことができ、ありがたい機会でした。地域の子どもたちのために何かをしたいと思いました。
- ・他の市町村の活動を聞いて、様々な活動を知ることができました。その取り組みにはびっくりすることもありました。一人一人の活動も積極的で多岐にわたっていました。委員自身がとても楽しんでいるのだと思いました。委員として全体での活動はなかなか難しいと思いますが、話し合いが必要だという声がありました。この委員会の存続も難しい部分もあるのかもしれませんが。すでにあるグループや学校行事に社会教育委員が入る余地はないとも感じています。
- ・ここには書ききれないほど学びがありました。和気あいあいと実に実りある交換となりました。
- ・また今からもう少し頑張ろうと思える時間でした。
- ・移住者が地域に参加することで、旧来の慣習にとられない地域行事が続けられるいい事例と出会いました。

・家に籠もってしまう子どもたちを地域の人材や大人たち、物を活用して引っ張り出すきっかけづくりが役割なのかなと思いました。

【全体を通して感じたことや、運営について】

- ・情報交換会の部屋の時が声がちょっと聞き取りづらく感じました。2名
- ・情報交換会の時間はもう少しあっても良いかと思いました。
- ・総会の時にこのような充実した研修も行われているので、北信の研究大会は不要だと感じます。
- ・やはり交流し合うということがとても大切だと思いました。
- ・つながりを大切にしていきたいと思いました。
- ・ざくばらんに話ができるところが良かったと思います。

2 令和6年度 CSに関わる地域・行政のためのスキルアップ研修まとめ

期日：令和6年5月28日(火) 会場：長野合同庁舎 501～503 会議室

参加者アンケート総合評価(昨年は未実施)

とてもよい	よい	ふつう	やや不満	大いに不満
85%	10%	5%	0%	0%

参加者:37名 (市町村担当者:7名、社会教育委員関係:23名 事務所等7名)

研修内容について

【油井さん・猿渡さんの発表から】

- ・講演から学んだことや、今後生かしたいこと、地域学校協働活動は地域づくりだという視点が勉強になりました。地域課題解決に使えるというのが新しい視点でした。
- ・放課後子ども教室のあり方について考えさせてもらいました。学校教育・家庭教育・放課後教育この3つが充実することが、子供の成長にとって重要であると考えます。放課後は昔は自分で遊びや運動を選択し、仲間を誘って活動したものです。その中で自分で判断して自分で決定した遊びで過ごしました。その時間を取り戻してやりたいと考えています。
- ・成功事例だけでなく、失敗したこともお聞きしたことがとても良かったです。お話を聞く中で新しい風を感じさせていただきました。どんなことでもいいからやっていくことで地域づくりにつながっていくということが学べました。
- ・地域の人たちを巻き込んで、いつのまにか地域の人の心にも参画しているという自負が高まるのが素晴らしいと思いました。
- ・地域課題の解決を通して危機感を共有することを学びました。できない理由を考えるよりできる理由を考えたいと思いました。
- ・教育は学校だけのものではない学校でやっていないことを、そして学校ではできないことをやろうという気持ちにもなりました。
- ・地域学校協働活動にはすごいパワーがあると思いました。地域としてどんな子供を育てたいのかをじっくり考えることもとても重要だと思いました。コミュニティスクール・地域学校協働活動というと学校が主体といった印象を持っていましたが、地域が主体となり支援を行っている実践をたくさん知ることができました。
- ・正しく地域の中で子供を育てることや地域の中にある学校であるということを改めて認識しました。放課後子ども教室、コミュニティ・スクール、協働活動で学校のできないことを地域にお願いしていくことで実現していくことなど参考になることが多かったです。
- ・講師の方の経験から生々しいお話をお聞きし、自分の地域の問題点や気づきがたくさんありました。中心となる方がやはり必要だと思いました。自分では力不足ですが、社会教育委員として自分の地域に戻り、問題提起していきたいと思いました。
- ・何でもありということが良いと思いました。その街のその地域を作っていく、子どもたちの果たす役割の大きさを感ずることができました。そのためにも社会教育の環境を整備することが必要だと思います。
- ・熱意と愛情を持った人材を育てる必要性も感じました。学校は敷居が高いというイメージを一般の人は持っているので、放課後子ども教室を有効に活用することで、地域住民が気楽に学校と関わることを学びました。
- ・学校と地域住民をつなぐコーディネーターが必要だと思いました。
- ・放課後子ども教室のあり方を知れました。コミュニティスクールでの学校行事への参加の仕方や地域学校という意味について考えてみたいと思いました。
- ・学校支援から地域学校協働活動に変わっていったこと、そして変わった理由を初めて知りました。そのことに共感できましたし、より地域住民としての意識が高まりました。
- ・地域の活性化にもつながる子どもたちの育成。なぜやるか目的を持って進めていくことが大切だと思いました。
- ・ハードルは高いお話だと思いましたが、大変良かったです。失敗から学ぶことの大切さ、気が重くなったところでほっとしました。

- ・とにかく小中で一体的なコミュニティスクールを、ミスを恐れず進めていきたいというふうに思いました。
- ・地域学校協働センターの取り組み What Why How が勉強になりました。自分自身がコーディネーターなので、ヒントをたくさんもらえました。ありがとうございました。
- ・委員をやっているながら何もできていないのが現状です。今日の講演を聞き、こんなことをやれたらあんなことをやれたらと夢を持つことができたと感じます。話を聞いていてワクワクしました。
- ・こんな体験を自分の子供や私自身もやってみたい。これから関わっていきな。という気持ちが高まりました。教育をきっかけに地域づくりをし、地域の方も関わりやすい形を作りたいと思いました。
- ・放課後子供教室には興味をもちました。が、飯綱町でどこから手をつけるのか、悩みます。
- ・社会教育委員さんの活動のサポートに活かして行きたいです。
- ・地域の様々な課題を乗り越える為に子供達を絡めるという発想は新鮮でした。情報交換では近くの地域のアイデアを聴いたり、活動のノウハウを知ったりできました。今後に向けて、たくさんのヒントをいただいたようです。滑舌が良く早口は気になりませんでした。
- ・トライandエラーで、地域の課題解決を学校を交えてしていくことで、関わる大人も子どもと地域社会も良くなっていくというカッコいい姿勢を教えてくださいました。指導ではなく、一緒にやるという考え方は良い視点だと思いました。
- ・放課後教室のお話は大変興味深いものでした。地域の実情を探りながらトライアンドエラーで、大人もチャレンジする事の楽しさ、苦しさを味わってみることも必要だと感じました。
- ・色々なところと連携して、目標は、地域作りだということが、理解できました。
- ・地域学校協働活動とは、学校に視点を置いた活動ではなく、地域主体、地域から学校への働きかけによるものだということが、とても印象深く残りました。今後、自分の活動の中で地域と学校(子ども)を巻き込む為に地域からの働きかけを積極的にしていきたいと思えます。
- ・CSは地域が学校を支援することだと思っていました。地域と学校の協働活動。関わる人は地域のプロフェッショナルでなくていいとわかってハードルが下がりました。どんなことでも子どもと地域を巻き込んで失敗を恐れることなく実践してみたいと思えました。

【情報交換から】

- ・各行政の実績がとても似ていて、課題は共通だというふうに思いました。
- ・それぞれの地域課題を出し合っって見えてくる方向性や異なる取り組みの話をしていただくことで、自分のこれからの仕事が見えてきました。
- ・地域づくりは人づくりなのだ改めて感じました。
- ・トライ & エラーをしながら、地域学校協働活動を進めたいと思えました。シニア大学の方とのつながりができればと思えました。
- ・対面式で話しやすい環境を整えていただき、ありがたかったです。
- ・地域課題を出し合ったところ、同じような課題が多く、他地域での取り組みに目を向けていきたいと思えました。
- ・トライ & エラーしながら一歩踏み出していこうと思える時間を過ごすことができました。
- ・まずは首長部局と連携し、できることを探りたいと思えました。
- ・空き教室の利用やシニア大学との関わりなど協力していけばいろいろなことができそうだと思えました。
- ・子供を地域で育てるという環境が大切だと思えました。年代を超えてつながる人づくりが必要だと思えます。
- ・学校を支援するというレベルではなく、一緒に取り組むことの意義をもう一度考えたいと思えます。
- ・今はボランティア的な考え方で参加している人が多いのですが、学校にあるボランティアルームを活用して何かしてみたいと思えました。
- ・行政、教育委員会などを絡めながら進めていく方がスムーズにできると思いました。
- ・普段会うことの少ない市町村の方と情報交換ができて良かったです。
- ・定年を迎えた家族がいろいろなことに目を向けていこうとしています。もっと前向きな言葉掛けを私自身がしてどんどん地域へ関わってってもらいたいなと思っています。そんな気持ちが高まってきました。
- ・高齢者も子供も皆対等な立場で関われる、そんな地域になっていくといいですね。
- ・コミュニティスクールは何のために存在するのか、それが子供にとってどうなのか、地域にとってどうなのかを再

度見つめ直して、コーディネートしていきたいと思いました。

その他(要望など)

- ・講演中のグループ討議の視点が曖昧で何を話すか戸惑いました。
- ・時間的な問題と進め方について、もう少し工夫してもらえれば、他地域の方々と話し合いを深められると思いました。
- ・コミュニティスクールについての解説も聞いてみたいと思いました。失敗事例とそこからどのようにして成功事例へと導いたのかを聞いてみたいと思いました。
- ・これからもこのような研修会を開き、一般の方が参加できるようなものになっていけばいいと思います。
- ・もう少し初心者がわかる講演内容でも良いのかと思いました。
- ・とにかく動き出すことの大切さを感じています。
- ・このような事例をいろいろなところで話してほしいと思います。地域の熱量を高めていきたいいくことにつながると思います。
- ・とても力強い講演をありがとうございました。
- ・猿渡さんのスピード感のあるお話についていくのはやっとなのですが、膨大な情報を短時間で聞かせていただきとても有意義でした。途中何度も挟んで頂いたグループ討議が、話しやすい雰囲気で大変良かったです。
- ・夏休みの、サマースクールの、参考になりました。
- ・現在、月に一度子どもカフェを運営しております。資金面、人材(運営人員)、地域とのつながり、学校との連携等々色々ある中で、今やっている自治体の場所を借りる形から、地域活性化の為に地域や国全体の問題となっている空き家空き店舗を利活用した居場所作りを通して地域の世代間交流が出来るようになりたいです。



3 令和6年度 地域ぐるみの共育フォーラム開催後アンケート

とてもよい	よい	ふつう	やや不満	大いに不満
66%	31%	3%	0%	0%
(R5 74%)	(R5 20%)	(R5 3%)	(R5 3%)	(R5 0%)

期日:10月19日(土)

会場:須坂市旧上高井郡役所

参加者:90名

当日の反省や感想

参加者の声 (感想や研修を通して学び、今後生かしたいこと)

講演会	<p>○演題「こどもたちの力を活かす環境づくり」</p> <p>○講師 こどもヘンテコまほうラボ所長 佐久大学講師 軽井沢町社会教育委員 島崎直也(なおやマン) 氏</p>
-----	--

- ・テーマや課題を持って取り組むことの大切さを感じました。自ら動く行動力がとても大事で成功に結びついていくと思いました。地域の現状ではすぐに取り組むことは難しいのですが、委員同士の連携をとりながら地道に進めたいと思いました。
- ・子供だけではなく、大人も自分の翼に気づき、自分の翼を活かせれば良いと思いました。そこに興味を持った子供と関わるのが大事で、大人もチャンスをつかみ失敗を繰り返せばいいのだと思いました。
- ・楽しい大人を見て、子供は面白いと思ってくれることが大切だと感じました。子供の力を信じることの大切さを感じました。大人が勝手に線引きをしないことが大事だと認識しました。
- ・大人は着地点を想定して活動を仕組むものですが、それが子供を枠にはめてしまっているのかもしれない。難しいのですが、子供たちの力を生かす環境づくりにチャレンジをしたいと思いました。
- ・環境が人間の行為を促すという言葉に納得と感心しました。そのためにも良い環境を整えたいと思いました。
- ・子供の誕生から生きるエネルギーを感じ、自分はどうか?という問いをもとにスタートしたことが子供たちの力を出し合う場づくりへとつながったことに感心しました。一足飛びには行かないものの、少しずつ進んでいこうと思います。
- ・子供を笑顔にしたいという活動から多くのことを学ばせていただきました。手を出しすぎず、子供たちをしっかりと見てあげたいと思いました。
- ・力×機会 = 笑顔 子供たちの生育環境のためにできることをやり、地域づくりをやっていく、とても根本的で大切なことを学んだと思いました。子供の成長を見守る大人を増やし、リスクを取ってでも環境を良くしていきたいと思いました。
- ・神社でも今は遊ばなくなっていることを実感しています。子供たちの育ちへの理解を地域の人たちに伝えていかなければいけないと思いました。
- ・子どもたちが考えている時に待てなくなり、口を出してしまう大人が多いなあと感じています。
- ・自分では何ができるのかといろいろ考えさせられました。子供たちと関わるのがあまりはないのですが、今日聞いたことを念頭に子供の力を信じて、大人は色々と言出しをしない。力×機会 = 笑顔 環境をつくってあげられるような人になっていきたいです。

- ・子供の力を信じることを基本に口や手を出しすぎず、促す環境作りをすること。環境の一部に自分もなること、これが大事だと思いました。一緒に挑戦する仲間となることが大切。納得の内容でした。
- ・非常に自由な発想で、子供たちの成長を考えていらっしゃる柔軟さに感服しました。子供の接し方、見方、そしてとにかく何かをすること学びました。子どもたちの能力を引き出させる接し方や環境について準備し、学んでいきたいと思いました。
- ・環境を整えるということが、子供のためにできることだということは大きな気づきとなりました。
- ・子供の力を活かす環境づくりとにっこりするような題材選定が大事だと思いました。今日学んだことを地域でどのように活かすのか考えていきたいと思います。ついつい大人が手を出してしまうのですが、子供中心に考えたいと思いました。
- ・コロナ明け、人口減少、少子高齢化などにより活動できる人材が少なくなってきたと思います。子供たちが遊ぶ場所がなくなっているのも、あまり使われていない公民館の分館や空いている体育館を利用して、子供たちがいろいろな体験をできる機会を作りたいと思いました。
- ・地域の方々にはいかに子どもたちに寛容な心を持っていただけるのか、そのような目線で見守っていただけるよう、PTA 会長として発信していきたいと思いました。
- ・大人が子供のやろうとすることを先取りして、ついつい制限してしまうなと思いました。自分もやっているなあと、反省することが多くなりました。リスクを恐れてやめさせてしまう。そこをどこまで我慢できるのか考えさせられました。
- ・力×機会=😊の理論を活用していきたいです。
- ・地域とのつながりの重要性を感じました。子どもの力を信じなければならないと思いました。
- ・遊ぶ環境を大人が見守ることが大事だと思います。大人の都合で作りすぎているとはとても感じていました。

第1分科会

「家でも学校でもないユースセンターという居場所のもつ可能性」

発表者 一般社団法人オレンジファム(千曲市)代表理事 中島 壮太 氏

- ・不登校の子供たちを対象にフリースクールにて教育し、改善されている事実を知れました。
- ・フリースクールの存在の情報が不足していると思います。学校との連携は将来学校に戻りたいと思った時には必要なことと思いました。
- ・見守ってくれる人があってこそその居場所、ただの箱じゃだめだということを知りました。
- ・学校や行政と連携をとってフリースクールや塾を経営しているというのは、本当にすごいことをやっていると感じるばかりです。私もいつか居場所が作れたらと思っています。諦めないでトライしていこうと思っています。
- ・大変素晴らしい内容でした。是非子供たちのために続けてご活躍いただきたいと思いました。
- ・考えさせられることがたくさんありました。若いのに頑張っている頼もしい若者だと思いました。もっと広く活動できるような環境を私たちが作っていく必要があると思います。
- ・保護者世代の方とも子どもたちの育ちについて、話をしていきたいというふうに思いました。地域全体で見守っていけるような環境を作りたいと思いました。
- ・素晴らしい実践を聞かせていただきました。課題が多い分野だと思いますが、学校との連携を密にしていることが今後とっても大きく生きてくると思います。
- ・不登校についてどうしたらいいのかと足踏みしているような自分が恥ずかしくなるような発表を聞かせていただきました。塾経営の収入で他の活動を賄っていると聞き、市や県や国はこうした活動を大いに応援してもらいた

いと思いをしました。

- ・若者が生き抜いていくために、学校と連携した取り組みが必要だと思いをしました。
- ・地域での子どもたちのふれあいの場を大切にしたいと思いをしました。
- ・中島さんの情熱、エネルギー、アイデアに感動しました。これからもその素敵なアイデアでいろいろなことにチャレンジしてください。応援しています。
- ・オレンジファムの取り組みに感心しました。今後も末永く活動されていくことを願っています。いろいろな大人と子供が関わるのが大事なのだということを改めて感じました。短期間で成果を上げていく、素晴らしい実践報告を聞かせていただき驚きました。
- ・学校との連携をとるなどのことをどんどんやっていくことも大切なことだと感じました。スタッフの構成や人数など、さらに詳細を知りたいと思いをしました。

第2分科会 「住民主体でつくる生涯にわたって安心してらせる地域」

発表者 旭ヶ丘地地区生活たすけ合いの会 代表 丸山 栄三 氏
須坂市地域包括支援センター生活支援コーディネーター 加藤 光弘 氏

- ・住民主体の地域づくりをいかに推進して広めていくのか考えていきたいと思いをしました。
- ・旭ヶ丘地区の取り組みは自分の地区にも活かせることが多くあり、大変参考になりました。
- ・高齢者の移動手段の困りごとを解決を始め、多くの地域貢献活動が活発なことは、やはり社会教育がよく機能しているということなのだと推測します。
- ・このような取組を地元で根付かせていきたいなと思いをしました。私の地元須坂市の発表であり、とても興味深くお聞きしました。
- ・地域のリーダーになれるような人材の育成が大切だというふうを考えました。
- ・素晴らしい取り組みに感服しました。
- ・何か事業を起こしていく際には遠慮なく知り合いに相談し、世の中には様々な助成金があるので、それを探し活用することが大事だと思いをしました。事業の柱になる人間を見つけ、ダメなら自分でやっつけようと思いをしました。
- ・住民同士が自分たちの困りごとをもとにつながり、自分たちで解決策を探り、その中で行政と手を取り合うという関係は、これからの社会や地域づくりにおいて大事な部分だと感じました。
- ・どこの地区においても高齢化は課題になり、高齢者が安心して過ごす姿は若者にも、子どもたちにも将来について安心をあたえることにつながると思いをしました。

第3分科会 「夏休みの子どもの居場所と活動づくり」

発表者 千曲市社会教育委員 小林 京子 氏

- ・小林京子さんの人とのつながりの広さにびっくりしました。子供たちもすごい体験もできていると思いをしました。思いつき、そして実行力、このスムーズな流れが素晴らしいと思いをしました。地域も全体で子どもたちを支えていく活動がいいなと思いをしました。
- ・とても素晴らしい取り組みだと思いをしました。まずは自分のご近所さんとコミュニケーションをとり役立てるようになりたいと思いをしました。

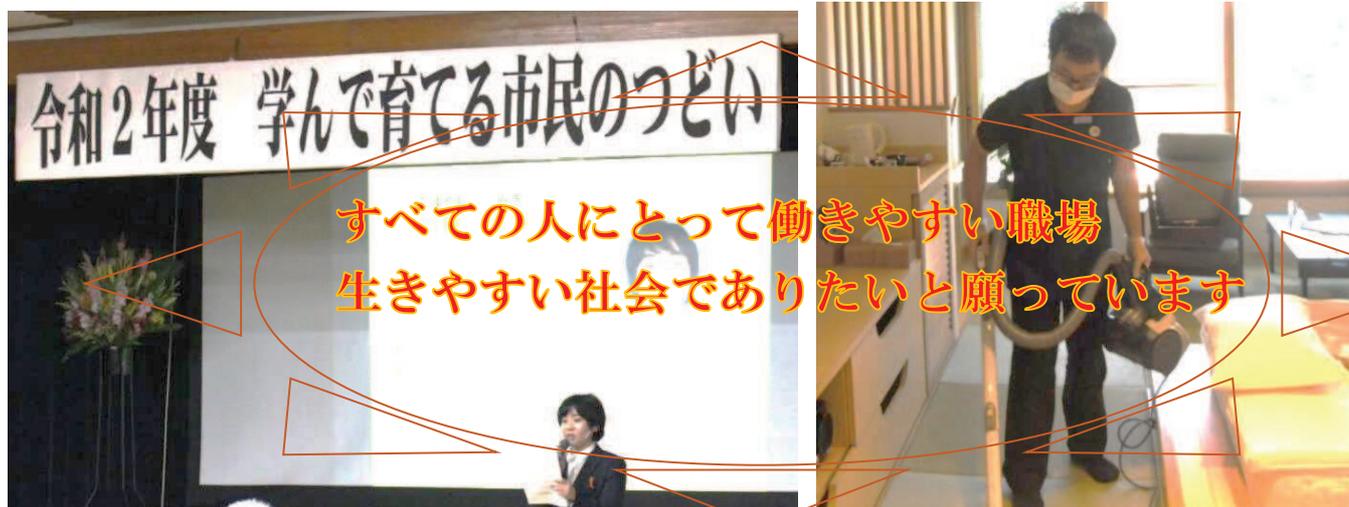
- ・運営に助成金を使えることが分かりました。子供に絞って活動した小林さんのような活動を自分の地域でできるのか、さらに持ち帰って考えていきたいと思いました。
- ・夏休み中は子どもたちも暇な時間で、また親子の時間もなかなか取れないと思います。遊びに行くこともできず、決まった人とだけ過ごしている時間になってしまうかなと思うので、学校の体育館やグラウンドを使っていろいろなスポーツ体験などができるような機会が作れるといいなと思いました。
- ・公民館をもっと活用できるようにしたいなと感じました。実践内容の全てが素晴らしかったです。全部は真似できませんが、参考にしていきたいです。
- ・信州型コミュニティスクールの活用や基盤をさらに強くしていくことが大切だと思いました。公民館でできる可能性もあると思います。このようなことに取り組む人材育成をしていかなければいけないと思いました。
- ・助成金の利用ということを今後考えていきたいと思いました。
- ・子どもたちに対する強い思いで居場所を作り、内容や金銭的準備をするなど素晴らしい活動だと感じました。リーダーシップがすごいと思いました。

○その他 感想や要望

- ・自分が経験してきたものやできることをもっと教え広げていってみたいなと思いました。
- ・通学合宿のような長期間の取り組みを聞いてみたいと思いました。
- ・公民館活動をもう少し活発にできるような取り組みもしていきたいですし、聞いてみたいと思いました。農業を通じた活動で、私は進めたいと思います。
- ・コロナで中止になっている夏祭りの再開をしていきたいと思います。中学生の有志を募ってみたが、参加者が少なく終わった部分が反省なので、今後に生かしていきたいと思います。
- ・地区で笛や三味線、太鼓、お囃子を続けています。今年、子供の参加を提案し皆さんの賛同が得られました。まずは会員が自分の子供と一緒にやっていきたいなと思いました。
- ・小林京子さんの何かをする時に柱になる人を探すという言葉が響きました。
- ・現在こども食堂のボランティアとして参加をしていますが、子供たちの接し方などまだまだ課題があるなと思っています。
- ・バレーボールを教えています。子供は難しいことでもチャレンジすることでできるようになって喜びます。まくできないことがあっても、子供たちは貪欲に取り組んでいます。
- ・若い人のエネルギーを感じる貴重な機会をいただいたと思います。ありがとうございました。
- ・大豆作りや狩猟を学び料理まですることについて取り組んでいます。
- ・中島さんぜひ全国にオレンジファムを増やしてほしいと思います。
- ・自分の子供は子供劇場で地域の人たちに育ててもらいました。演劇体験、キャンプ体験、ボランティア体験、アート体験と様々な活動を親子で楽しみました。根っこができたと思っています。
- ・フリースクールにも行けない子供、子供を受け入れられない親たちがたくさんいることがどうにかならないかなと心配です。
- ・お祭りは年々形を変えてきていますが、継続できることで子供たちが喜んでます。
- ・コミュニティスクールの活動をさらに強化していくことが地域で豊かにたくましく生きる子供たちを育てることに繋がると思います。

生き生きと輝く若者たち

～青少年・若者の孤独・孤立に関わる問題について～



1

【研究調査テーマ】

ひきこもりとなり、社会参加できなくなる前の段階で、
社会教育委員としてかかわれること

～「青少年・若者の孤独・孤立問題を考える」～

※40代になったら社会参加は難しい。困る前に手を打つ

☆「青少年・若者の孤独・孤立問題」はテーマの
キーワードと重なる

☆さらには「不登校30万人問題」につながるものがある

2

【研究調査をするようになったきっかけ】

- 個人の活動を大切にしつつも、共通のテーマを持ちたい。
- 社会教育を「学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育的活動」(社会教育法第2条より抜粋)としてとらえ、地域における現状を眺めつつ、これからの青少年や成人に対する教育活動の方向性について考えていきたい。
- 「八〇五〇問題」など、ひきこもりの問題が長く社会問題となっている。
- 加えて若年無業者や孤立しがちな青少年が増えている。

3

4年間の研究調査の経過

- 令和元年度 NPO法人ぱーむぼいす
「就労訓練支援事業 ほっぷすてっぷJOBcollage飯山」視察
- 令和2年度 春蘭の宿さかえや視察
学んで育てる市民のつどいにて、湯本晴彦代表取締役社長による講演
- 令和3年度 ほっぷすてっぷJOBcollage中野視察
- 令和4年度 春蘭の宿さかえやの従業員さんと作業を通じた交流



4

令和元年12月 NPO法人ぱーむぼいす 就労訓練支援 事業 ほっぷすてっぷJOBcollage飯山を 視察して

- 事業の対象者は、高校卒業後から29歳ぐらいまでの青少年で、就労の意思のある人
- 関係機関との連携拡大と支援体制の整備
- 課題とその解決の難しさ

当事者とかかわりをもつには、
時間と根気が必要な時も…



令和2年「JOBcollage中野」開設
～小さな声もときには大切な声になることを学びました～

5

【視察から見えてきたこと】

- 当事者や保護者を孤立させない総合的で継続的な相談支援が大切である。

※相談窓口は当事者より保護者を先にする方が有効な場合が多い。

- 当事者が気軽に立ち寄り、なんでも話すことのできる支援者や仲間が身近にいる、そんな居場所づくりが大切である。

※当事者に寄り添いながら同じ目線に立って話すことのできる支援者の存在。

※同じような経験を持ち、気軽に何でも話せる仲間のいることが、青少年・若者を孤立させないためにはとても大事なことである。

6

令和2年10月 山ノ内町渋温泉春蘭の宿さかえや を視察して



「『自分のため』だけでなく『誰かのため』を加えれば、明るい未来につながると思っています」…委員

- 従業員のアイデアが活かされた館内
- 従業員一人ひとりと向き合う、そこから見えてきたことを基に新たな取り組みが生まれる
- 仲間をつなぐ春蘭通信

「人を育てるには、あきらめず、気負いせず、ゆっくりといつまでも愛情とつながり、時に感謝と良さを伝えていく事が大切」…委員

「すべての従業員が孤立せず、仲間を意識できるようになってほしい」…湯本社長

7

【視察から見えてきたこと】

- 経営者と従業員が一体となること
- 同僚同士のつながりが従業員一人一人の働く支えとなること
- 令和2年11月
「学んで育てる市民のつどい」にご講演いただく

2 【講演】 秋田「多様性の時代に子育てはどうあるべきか」
～旅館甲子園を通じて学んだ子育て～

秋田県 湯本 晴彦さん
代表取締役

旅館「春蘭の宿さかえや」は、従業員の人性を育つため、31歳未満の若手社員、専業主婦の生徒などを対象に社会福祉への理解を深め、社員全体での研修を実施し、人と人のつながりを築き、成長を促しています。

2015年からは、不登校などで高校卒業後を控えた方が、さかえやで働きながら、日中を活動し、高校卒業に必要な知識を身に付け、その単位が取れるフリースクールを創設しています。インタビュー取材や各所で講演をされ、このような職場の実践に多くの人が感動を覚えています。

秋田県 湯本 晴彦さん
代表取締役

2017年 秋田県立大学にて講演
2018年 秋田県立大学にて講演
2019年 秋田県立大学にて講演
2020年 秋田県立大学にて講演

8

生き生きと輝く若者たち

～青少年・若者の孤独・孤立に関わる問題について～



我慢することはいいこと...

不登校になる



私はどうしてできないんだ...

自分を責め続けてしまった

知り合いに勧められて 「春蘭の宿さかえや」へ

失敗には、対策すればいいことを初めて知る



「我慢すればいい」や
「人を上か下かで見ると」
ことは
間違い！

自分の力で、やりきる楽しさを知る！

10

令和4年9月 春蘭の宿さかえやにて従業員と一 緒に働くことを通じた交流から

- ・一人ひとりの従業員に対する配慮と工夫
- ・働き方への柔軟な対応
- ・就労訓練支援事業（詳しくは「つながろう 社会と」第2号へ）



【交流活動から見えてきたこと】



12

おわりに

- ・ 「就労訓練事業」は社会とつながりにくい（孤立しがちな）青少年・若者にとって素晴らしい事業

⇒ 「働きやすい」職場の一つのモデルでもある

生活困窮者に対する就労訓練事業の取組が広がっています	
就労訓練事業って？	雇用契約を締結せず、訓練として就労を体験する「非雇用型」と、雇用契約を締結したうえで支援付きの就労を行う「雇用型」のいずれかで就労を行います。どちらの場合も、本人の状況に合わせてステップアップしていき、最終的には一般就労につなげることが目標です。
どのようなことをするの？	例えば、毎日の就労が難しい、体調の変化でときどき休んでしまうという方に対しては、就労日数や一日の就労時間を少なくしたり、まわりの従業員の理解を求めつつ、その方が休んだ時の仕事をカバーしたりするなどの配慮をします。その人の得意なことなどをいくつか切り出して、一人分の仕事としてお任せします。
対象者は？	すぐには一般企業等で働くことが難しい方です。具体的には、長期離職者、ニート、ひきこもり、心身に課題があったり、精神疾患を抱える方、生活保護受給者など、さまざまな状況の方を対象としています。
どこの事業所が就労訓練事業をしているの？	社会福祉法人やNPO法人、営利事業所等が自主的に行っています。詳しくはお近くの生活就労支援センターへお問い合わせください。

就労訓練事業
(生活困窮者自立支援制度)

13

- ・視察研修は私たち社会教育委員を学び太らせるとともに、そこには必ず市民へ伝えたい（情報発信したい）ことがある
- ・「青少年・若者の孤独・孤立問題」はいつそう大事な社会問題として受け止めていかなければならない
- ・高齢ご夫妻がご自身の自宅である古民家を「憩いの場・縁側」として開放し、高齢者同士がお互いに「そこそこ」顔が見える関係づくりや魅力的な地域づくりにかかわる活動を展開している
- ・令和5～6年度は「つながり」と「多様性（共生）」をテーマとして取り組んでいる。

14

社会教育委員新聞 「つながろう社会と」



↑ ダウンロードはこちらから ↑
1号・2号が読めます

令和6年度 長野県社会教育研究大会に参加して

北信地区社会教育委員連絡協議会 副会長 小林京子

令和6年度長野県社会教育研究大会が、リモートでなく一同に会して開催されたことに関係者の皆様に感謝申し上げます。

昨年と同様「地域のつながりを深め共に学び合う社会教育の役割を考える」を研究テーマに77市町村約280名の参加者が集い熱心に事例発表や意見交換を行いました。

開会行事に続いて全体会では、阿南町と大町市の事例発表が行われました。

阿南町では、ユネスコ無形文化遺産登録をきっかけに地域資源の魅力や活用方法、昔から受け継がれてきた伝統文化の継承などを町や社会教育委員が関わる様子を動画を交えて発表し、今後の新たな取り組みや課題についても具体的に問題提起されていてとてもわかりやすく参考になる事例発表でした。

大町市の事例発表は、社会教育委員は、何をどうやって活動することが社会教育委員の仕事なのかという、だれもが任命されて最初に悩むことをきっかけとしたものでした。

コロナ禍の中で社会教育委員の活動も制限され、止まっていた活動を再開するようになったときに私たちは、どうやってこの社会の中で社会教育委員の目指す大きなテーマを構築し共有することができるかと大勢の委員の方は、思い悩んでいると思います。

今回の大町市の事例発表から、地域との関わり方や、青少年事業、まちづくり、公民館などと情報を共有し自ら学び、地域を知るために現場に足を運ぶことが、はじめの一步になるのではないかと。そこからいろいろなことが、見えてくる。このことを活用し実践すればうまくいくのではないかと。いろいろなところに参加し自ら学び人脈を広げつなぎ役になれば、私たちの社会教育委員の役割もうまくいくのではないかと。このようなことを学びました。この事例を参考に私たちもそれぞれの地域で頑張りましょう。

午後は、「地域で紡ぐ 地域の歴史学習」「茅野市の社会教育委員の現状について」「生き生きと輝く若者たち～青少年・若者の孤独・孤立にかかわる問題について～」「語り合っで見えてくる!社会教育委員」の4つのテーマで分科会が開催されました。

秋のひと時、新たな学びの機会を与えて頂き若返った気持ちで明日からの活動に力をもらえた研修会でした。ありがとうございます。

5 第55回関東甲信越静社会教育研究大会に参加して

(第66回全国社会教育研究大会、第10回関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会を兼ねる)

北信地区社会教育委員連絡協議会 事務局 菅原 勇介

期日:令和6年10月24日(木)25日(金) 会場:水戸市民会館

研究主題:「誰一人として取り残さない社会を目指す社会教育のあり方 ～子どもたちの健全な成長を支える～」

1 記念講演 「あなたの知らない名字の世界 ～名字には隠れた日本文化がある」

苗字研究家 高信 幸男氏

(1) 名字とは

「名字」「苗字」「氏」の違いは?初めてあった人に「あなたの氏は?」と聞く方はいますか?いないですね。市役所や銀行では「氏名」を書きましょうと言われると思う。法律的には「氏名」が正しい。しかし、「名字」が一般に広がっている。「苗字」という字は戦国時代だけ使った。稲の苗は非常に増える。昔の戦は数が多いほうが勝った。いかに自軍の兵を増やすかが問題だった。そこで「自軍の兵を増やしたい」「大事な食料」という意味合いから「苗字」という字を使うようになった。



(2) 名字の歴史

みなさんの名字はいつの時代から使っているか?なぜその名字にしたか知っている人はいますか?まずいないですね。昔は戦で勝つと名字が残る。負ければなくなってしまう。関ヶ原の戦いで負けた西軍の侍の名字を江戸時代は使えなくなったという歴史もある。

「日本にはどれくらいの名字があると思いますか?」約13万ある。名字が増えるのは「帰化」「裁判所による氏の変更」、減るのは「一族の滅亡」「裁判所による氏の変更」である。養子縁組の制度もあるので、何とかして残そうとするケースもある。

(3) 名字と地域性

この名字読めますか。「坏」(あくつ)「吽野」(うんの)これは茨城の特有の名字。地域性のある名字もある。長野県の場合は「百瀬」(ももせ)さん。長野県ではたくさんいるけれども、他県にはあまりいない名字がある。

(4) 珍名とは

珍名に基準はない。自分で基準をつくれればよい。

1. 難読

磴(いしばし)などたくさん紹介(珍しすぎて変換できず)

2. 読めるけれども名字なのか

毛穴 時計 住所 地名 味噌 醤油 家出 基石 仏 地名 番地 など

3. 数が少ないもの

旅沢(たびさわ) 川崎田(かわさきだ)

以前アメリカの雑誌から「なぜ日本人は日本人同士で読めない名字があるのか?」という質問があった。日本以外の国では国民同士は確実に名字は読める。

① 名字が生まれた時代と言葉が違う 例:台(うてな) 土師(はじ)

② 日本独自の文字をつかった(国字) 例:辻(つじ) 袴(かみしも) 坏(あくつ) 唸(さそう)

③ 自分の好きな読み方をした 例:「生」という字で 壬生 生方 生駒 羽生 柳生…生だけで40の読み方

(5) 全国の名字

各県を代表する珍名を紹介する。長野は「位高」(やごと)、宮城は「百足」(むかで)、他にも、秋田は「西風館」(ならいだて)、栃木は「四十八願」(よいなら)、新潟は「飯酒盃」(いさはい)、静岡は「月出」(ひたち)、京都は「一口」(いもあらい)、山口は「勘解由小路」(かでのこうじ)、佐賀は「一番合戦」(いちまかせ)、大分は「卍山下」(まんざんか)等

(6) 名字と名前の関係

名字を調べていると名前も気になってくる。そこで調べたら

阿井卯栄雄さん、網戸しめ子さん、生出やすさん、羽賀ユイさん、有馬センさん……

名前は一度付けたら簡単には変えられない。名前によるいじめが起こるということは実際にある。よく考えてもらいたい。

おまけ名字クイズ 十(つなし)、一(にのまえ)、前(すすめ)、城(きずき)…奄美大島は一文字の名字が多い。

幽谷(かすや)、兀山(はげやま)、一尺八寸(かまつか)、「王来王家」(おくおか)、「左衛門三郎」(さえもんさぶろう=そのまま)

来年から戸籍にフリガナをふることになる。市町村はこの対応は非常に大変になるかと思う。この際だと思って、好きな読み方で出す人が出てくるのが心配される。もしかしたら「おかしな」名字ができてくるかもしれない。

→名字の話と社会教育をどのようにつなげてとらえたらよいのか考える講演だった。そんなときにふと思い出したのが「社会教育は地域の宝さがし」という話だった。名字をきっかけに「地域を知り」「つながりを感じる」ことになるかもしれないと思った。高信先生の場合は「名字」だが、それぞれに何かを見つけ、それをきっかけに地域をみつめ、つながりを広げていけばよいのだと感じた。

2 シンポジウム 「子どもたちの成長を支えるために社会教育は何ができるか」

コーディネーター:金藤 ふゆ子 氏(文教大学教授)

シンポジスト :横田 能洋 氏(茨城NPOセンター・コモンズ代表理事)

長谷川 馨 氏(大洗町教育委員会教育長)

早川 愛 氏(NPO法人たまり場ばぼ 代表理事)

・シンポジウムの趣旨

「子どもたちの成長を支えるために社会教育は何ができるか」これはかなり挑戦的である。社会教育として子どもたちの成長を支えることが求められ、社会教育を基盤として、持続可能な地域づくりをすすめることが社会教育に求められる。しかし、子どもたちをとりまく環境は困難を増し、格差も広がるばかりだ。そこで地域全体で子どもたちを育てるという方向が示されている。その中でコミュニティ・スクールや地域学校協働活動が位置づいているが、まだ途上の段階である。3名の登壇者の取組を出発点に考えを深めていきたいと思う。



○横田氏の話

洪水をきっかけに復興まちづくりの取組を始めた。保育園やシェアハウスなどの運営を行っている。はじめは放課後等で学習支援を行っていたが、もっと小さいころからと思い小規模保育(多文化保育園)をスタートさせた。言語

を壁に就学に苦しむ人が多々いることを課題に感じていた。また、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語などを話せる人がいるが、その方がそれをいかして働ける場がなかった。そのため工場で働くばかりだった。そこで多文化保育園をスタートさせた。地域の中で日本語を学ぶことができる場を地域につくる必要性も感じ、自主夜間中学、オンライン授業なども始めた。

学校に入る前の子どもたちに向けての取組であることを考えると、これはまさに社会教育の範疇ではないかと考えている。学校に入りやすくするための学ぶ場所が今後さらに求められていると思う。そのためには教育と福祉が一体的にすすめること、社会教育に携わる行政関係者が地域に出ることが大事だと思っている。同時に日本のルールを学ぶ機会もつくっていききたい。制度の壁としては国籍条項についてなくしていききたいと思っている。

○長谷川さんの発表

大洗うみ・まちコミュニティ・スクールをつくりたいという強い思いから、社会教育主事、社会教育委員などのみなさんが力を出し合って実現させていこうとしている。「地域とともに歩む学校」が理念。この背景は郷土を愛せる児童の育成、学校を核とした地域活性化への挑戦（大洗町の地域のつながりを強化、子どもの元気が地域に元気に）。町は2小・2中。町で学校運営協議会総合本部をつくらせている。これを推進しているのは社会教育主事。茨城県には50名以上の教員籍の社会教育主事がいる。学校運営協議会は中学校区で設置している。エリアで取り組む。学校運営協議会では「どんな学校をつくるか」「どんな地域をつくるか」を話し合っている。さらに特色ある学校づくりとして「海洋リテラシー教育」「STEAM教育」をそれぞれのエリアのモデルとして取り組んでいる。海洋リテラシー教育で大洗の自然を愛する子どもを育てたい。STEAM教育で新たな時代にチャレンジできる子どもを育てたい。このような特色を打ち出している。

今年から地域学校協働活動推進員を委嘱した。地域は学校を核とした地域づくりを、学校は地域とともに歩む学校づくりを地域学校協働活動により進めていききたいと思っている。来年からは学びの共有を大事に考えようと思っている。「絆づくりは夢づくり」

コミュニティ・スクールは協議会を設置すればできるのだが本当の意味ではできない。学校、家庭、地域がそれぞれの立場で何をできるか考え、合わせて町も町としてできることは何かを考え、翌年度の施策や予算に反省させていく。できること、できないことがあるが夢を語り合うことはできる。

※長谷川さんと水戸市の教育長で派遣社会教育主事の有効性について全市町村を回って説明をした経緯がある。

○早川さんの話

ひたちなか市で活動をしている。企業や自衛隊基地の関係で他県から来る人が多い。そのため、子育て中の母親が孤立しやすい環境にもなる。親が孤立している状況は絶対によくない。そこで子育て支援団体を立ち上げた。地域の先輩ママは新米ママに寄り添う形をつくらせている。

子育てサロンのスタッフは地域の子育て経験者30代～60代で構成。母親の就労支援の場にもしている。またサロンに来られない母親のための訪問事業（ホームスタート）を始めた。40時間の研修を受けた地域の子育て経験者が4回訪問をする。無料での対応。

プレイパークひたちなか、子ども食堂（150～170名の利用）、外国人ママ支援（お母さんと友達になる、3者面談などで通訳として同行＝無料）、「孤育て」から地域の人もママもエンパワーメントされていく。今後も当事者支援を行っていききたい。

金藤さんからの質問

・地域を巻き込む工夫は

横田 氏：多様な人を巻き込むこと。地域を巻き込むということはマイノリティがどんどん出てくる状況のことだと思っている。

長谷川氏：自分だけでできることではない。社会教育主事が本当に頑張っている。今の社会教育主事は地元の出身者。そういうスタッフがいてこそつながる。地域には原石がたくさんいる。その方をどう拾うか。どうしよう

かなと迷っている人を後押ししてくれる存在が必要。社会教育委員は多くの団体とつながっている。学校関係者だけでは社会にどんな団体とどんな人がいるかなんてわからないと思う。社会教育主事が地元の人のお家にあんパンをもってでかけてお話をしている。社会教育主事がどれだけ地域に自由に出歩いていけるのが大事である。

早川 氏:非常に難しいと思っている。来てくれたスタッフには徹底して理念を伝えている。そこに共感が生まれ、友だちを誘って輪が広がっていく。

・これまでに直面した困難 乗り越え方

横田 氏:県の予算がつかない時代が長くあった。お金はいいから指導主事に会議に来てもらった。そこで連携がすすんだ。お金は出なくてもできることを一緒にやることと情報を共有することができるようになった。

長谷川氏:楽天的に考える。でも部下は大変だと思うのでいたわっていきたいと思う。スタッフを思いやることはチャレンジ精神につながる。

早川 氏:忘れること。NPO法人にしたときに助成金や補助金の担当者が本当にすごかった。その方が交代してからが大変だと思う。

3 分科会「地域と学校の連携・協働」

発表者①:岡田有利子 氏 (いよ本プロジェクト代表 伊予市社会教育委員) (愛媛県伊予市)

テーマ①:本で人をつなぎ地域に活力を生む冊子「いよし百冊物語」発行事業

伊予市は小学校9校、中学校4校、公民館6館、人口4万人程度の市。

いよ本プロジェクトとは、2019年からスタート こども食堂と一緒に開催した。

- ① 交流会(本の紹介)
- ② 古本交換会
- ③ 私設図書館の運営 などを実施するプロジェクト

活動目的:本を通して人をつなぐ 本と人をつなぐ

この目的を果たすために、①伊予市内各地域で、②地域ぐるみで、③顔をあわせて、④学校や公民館と取組を進めた。



「いよし百冊物語」発行事業は伊予市の補助金を得て、教育委員会の後援を得て行った事業。「いよし百冊物語」とは、伊予市の115名はおすすめの106冊の本を紹介した冊子。どんな本をすすめてもよい。1歳から80代の人まで紹介をした。市長も教育長も、小中学校の図書委員も紹介した。また、学校のお昼の放送で「推し本」を紹介することもあった。紹介した人の顔写真と自己紹介も入れた。発行にあたって、115人の執筆者と20の機関団体と関わりで25回のイベントを実施した。

冊子は発行して終わりではない。発行後に何をすることが大事だと考えている。発行後、伊予市立図書館との連携がスタートした。図書館において紹介した106冊を展示してもらった。また、はばたき教室(教育支援センター)に本の一部を寄贈した。さらに、各公民館等をまわり、106冊の紹介を実際に本も携えてお披露目会を実施した。最後には冊子で本の紹介をした115人による大交流会を実施し、市民同士のつながりもできた。

事業の効果としては①自分の人生の輝きを見つける ②本を選んで人の魅力を知る ③世代をこえたつながりをうみ、地域ぐるみとなる これら3つが生まれる。読書や本はあくまで手段。この手段を用いて、それぞれが幸せになることが最終目標。

現在第2弾に向けて動き出している。クラウドファンディングを実施し目標金額を超えた金額が集まり、発行が決まった。11月3日に完成報告会を実施予定。

発表者②:瀧崎 眞一 氏 (森と地域の調和を考える会 代表) (茨城県常陸大宮市)

徳増 香織 氏 (常陸大宮市立美和小学校 教頭) (茨城県常陸大宮市)

テーマ②:地域ぐるみで子どもたちの「生きる力」を育む教育システムの推進

美和地域はどんどん地域の人口が減少し、今後の存続に危機感をもっている地域。その中で地域活性化に向けて、① 自然(森林資源) ② 伝統の材などをいかしていく。

プロジェクトは5つある

① 木の駅プロジェクト(軽トラとチェーンソーで晩酌)

間伐材を寄付してくれた人に地域通貨を発行する。地域通貨は美和地区のみで使える。3種類の通貨を発行し、あおもり券は一般的な券、あかもり券はガソリンに使える券、思いやりもり券は利用が少ない店舗での利用を促す券となっている。

② 薪販売(スウェーデントーチ)

キャンプブームもあり自主財源として期待している。

③ 森林教室・環境教室

学校での出前授業。森林での伐採体験。バイオマスボイラーの見学会

④ 中世の城郭整備事業

地域住民とともに調査をしたうえで、専門家により調査研究を行う。それをもとに整備し山城を整え、そのことを冊子にまとめ、見学会を実施する。

⑤ 街並み保存修復事業～高部宿 養浩園～

地域に残る歴史的価値遺産として樹木をよみがえらせ、池の水を戻し、橋を復元した。2019年に全国の庭師の研修会がこの会場で実施されさらに美しく整えられた。令和4年には国の登録文化財になった。これらの整備に小学校の子どもたちが関わっている。

今感じているのは「無力感」である。地域活性化に向けては地域の実体経済まで豊かにしなくてはならないと思っている。しかし、12年活動して実体経済の活性化にはほど遠い。だから無力感がある。しかし、ある住民に「こんな素晴らしい活動ができています。期限を決めずに取り組めばよいのではないかと」言われた。地域の賛同を得ることができたことは手ごたえとも感じるようになっている。



徳増さんの発表(学校の立場から)

全校児童62名。地域力を高める人材、郷土で輝くことができる人材育成を目指している。そのために、森と地域の調和を考える会と連携協働している。そのことをカリキュラムにも位置付けている。

常陸大宮市では地域学校協働本部をすべての学校に設置し、地域学校協働活動を全市的に進めている。間伐材などをいかして環境教育も推進している。養浩園の活動は文化庁の文化芸術による育成事業を活用して実施した。課題は地域活性化にどうつなげるのか。中学校や高校とどのようにつながっていくか。この2点だと考えている。

助言者:丹間 康仁 氏(筑波大学人間系准教授)の話

・事例1について

活動の大きな輪の中の一つとして学校があることが特徴だ。学校のためとか学校を場にするだけでなく、公民館、教育支援施設、図書館など色々な場で活動が展開され、関わっている人同士がつながっている。

・事例2について

今、学校教育でも社会教育でも地域への愛着を育てることが語られる。この愛着とはだれが何に対してもつものなのか。ふるさと学習やキャリア教育とどのように結びつけるか、学校の教育課程に地域の困りごとや悩みを解決するようなことを入れ込み、地域のいいところも大変なところも実感していくことが大事だと思う。「計画のない学びは×」「計画にある学びは○」「計画になく起こる学びは◎」

2つの事業に共通して、地域と学校が手を取り合い連携・協働することは目的ではない。どんな地域づくりをして、どんな育ちを促すのかそれを合意し実践することが目的だ。「ひとりの子どもを育てるには、一つの村が必要だ」これは有名なアフリカの諺だが、ここにあるように地域ぐるみの取組が大事になる。

学校教育は教師と児童・生徒が縦関係になる。生徒は上に向けて伸びようとする。差は知識量という部分はかなり大きい。社会教育の場合は横の関係になる。差は価値観や考え方、経験値ということになる。今必要なことは学校教育の学習観の転換ではないか。多様性をいかして学んでいくこと、子どもと大人はナナメの関係であり、対等な関係。子どもや大人が変わっていくからこそ地域が変わっていく。

これから地域とともにある学校をつくり、学校を核とした地域づくりを進める上でどのようにかわるか。社会教育委員がどのようにかわるのかこれから考える必要がある。

学校運営協議会委員は学校づくりに地域や家庭が参加し方針をつくっていくことが役割になる。地域学校協働活動推進員や地域学校協働活動は社会教育法に位置付けられている。場所は学校の内外色々ある。これを学校教育ではなく地域における社会教育活動として地域住民も学校もとらえることが大切だ。地域住民も協働活動により何を学び、どう地域づくりと関わるのかを考えることが必要になる。

コミュニティの語源は「何かを共通なものにしていく」ということ。それはコミュニケーションを活発にするということ。コミュニケーションのきっかけは「困りごと」であることが多い。「困りごと」を知り合い語り合うことが、つながりを深める上で大事なきっかけになる。「協働」は困りごとに向かう上で大事な考え方。互いの違いをいかして新たな価値が作りだされること。協働のプロセスは①困りごとを知る→②力を出し合う→③学び合う 学校も地域もついつい②の力を出す取組から入ろうとする。その場合は目的や思惑が共有できない。だからこそ、①の部分で大事にできるとよいと思う。

○所感

全国には様々な取組があり、それぞれの地で地域課題と向き合い、解決に向けて、楽しく、そしてネットワークを広げながら元気に活動する人がいるのだと力がわいてくる2日間だった。「社会教育」は「学校教育・家庭教育以外のすべての教育」とされ、非常にあいまいでつかみどころがないとも言われる。しかし、生涯学習社会のづくり手となる多様な人の学びをつくる大切な分野である。多くの課題に対して社会教育的な対話によるアプローチを試みることは、持続可能な社会、住民主体の地域活性化の実現に大きな可能性を秘めていると感じた。そして、学んだことを生かす環境をどうつくるのがこれからはより大事になると感じた。



Ⅲ 市町村社会教育委員連絡協議会の活動の様子

Ⅰ 長野市

○ 構成

学校教育関係者 1名 社会教育関係者 6名 家庭教育関係者 2名
学識経験者 1名 計10名

- ・任期は、令和5年6月5日から令和7年6月4日までの2年間
- ・選出については、10名中の8名は各種団体に委員の推薦を依頼し、2名は公募
- ・令和5年度からの新任者は8名

○ 令和6年度活動報告

《長野市事業関係》

- ・第1回長野市社会教育委員会議 開催（令和6年7月17日）
- ・第2回長野市社会教育委員会議 開催（令和7年2月 5日）

《大会関係》

- ・北信地区社会教育委員連絡協議会総会及び地区研修会（信濃町総合会館）
- ・長野県社会教育委員連絡協議会総会及び講演会（長野県総合教育センター）
- ・長野県社会教育研究大会（長野県総合教育センター）
- ・北信地区社会教育研究大会・地域ぐるみの共育フォーラム（須坂市旧上高井郡役所）
- ・第66回全国社会教育研究大会及び第55回関東甲信越静社会教育研究大会（茨城県水戸市）

○ 今年度の社会教育委員の活動を振り返って

長野市社会教育委員 吉江 速人

令和6年度は、社会教育委員として委嘱され2年目となります。

私事で申し訳ありませんが、令和6年度に自分が住んでいる自治区の役員改選に当たり、自治区の三役への就任要請があり、脳裏に「社会教育委員に委嘱されている」という考えがあったためか、結果として受諾してしまい、本年度の4月から自治区の三役に就任してしまいました。

三役に就任して、社会教育法では、その第2条に「社会教育の定義」として、「この法律において「社会教育」とは、（中略）、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む。）をいう。」と定められておりますが、まさに、それぞれの自治区が行っていることは、社会教育法に定義されている地域での教育活動を実践しているものと感じております。

他の自治区でも同様の内容かと思いますが、私の居住する自治区の年間の主な活動は、次のとおりです。

- ・ 4月 区民総会に合わせて桜を見る会 ， 長野マラソンボランティア参加

- ・ 5月 一斉清掃
- ・ 7月 ながの祇園まつり，区民ラジオ体操（15日間）
- ・ 8月 区民レクリエーション（市内の高原での野外レクリエーション），盆踊り大会
- ・ 9月 区内の神社秋祭り
- ・ 10月 一斉清掃
- ・ 11月 区民防災訓練
- ・ 12月 年末夜間警備，越年祭
- ・ 1月 どんど焼き，区民新年会

上記のように、一年間に多くの行事がある中で、準備等を含めて役員も大変なところではあります。これらの活動が地域の人と人との絆を深め、孤立感の解消を図り、いざという時の地域としての連携した活動につながっているのだと感じているとともに、これら行事への地域住民の皆様の参加の一層の促進が大きな課題だと感じているところです。

冒頭、以上のような個人的な地域との関わりを記載させていただいた上で、令和6年度中の委員活動等について記載いたします。

1 長野市社会教育委員会議関係

本年度は、これまでに2回長野市社会教育委員会議を開催しました。

審議内容等は、次のとおりです。

(1) 第1回長野市社会教育委員会議

- ① 日時 令和6年7月17日 午後2時から
- ② 場所 長野市立安茂里公民館
- ③ 協議事項

- ・ 安茂里公民館における主催講座等の実施状況と施設の利用状況について
安茂里公民館館長から、主催講座等の実施状況などについて説明していただき、その説明内容を受け、委員と意見交換を行いました。
- ・ 令和6年度社会教育関係事業計画及び令和5年度事業実施状況等について
令和6年度事業計画、令和5年度事業実施状況等について、事務局から説明があり、その内容について議論しました。
- ・ 第三次長野市生涯学習推進計画の取組状況について
第三次長野市生涯学習推進計画の取組状況について、事務局から説明があり、その内容について議論しました。

(2) 第2回長野市社会教育委員会議

- ① 日時 令和7年2月5日 午後2時から
- ② 場所 長野市豊野防災交流センター
- ③ 協議事項

- ・ 長野市豊野防災交流センターの施設紹介と運営状況について
長野市豊野防災交流センター所長から、令和6年8月に生涯学習や地域交流の場として、また、地域の防災・災害支援活動の拠点としてオープンした交流センターについて、施設見学とともに、施設内容の紹介及び説明をいただき、その説明内容等を受け、委員と意見交換を行いました。

- ・ 公民館・交流センターにおける長野市施設案内予約システムの導入について
公民館・交流センターにおける長野市施設案内予約システムの導入について、事務局から説明があり、その内容について議論しました。
- ・ (仮称) 芋井総合市民センターの進捗状況について
現在新築工事が進められている(仮称) 芋井総合市民センターの進捗状況について、事務局から説明があり、その内容について議論しました。

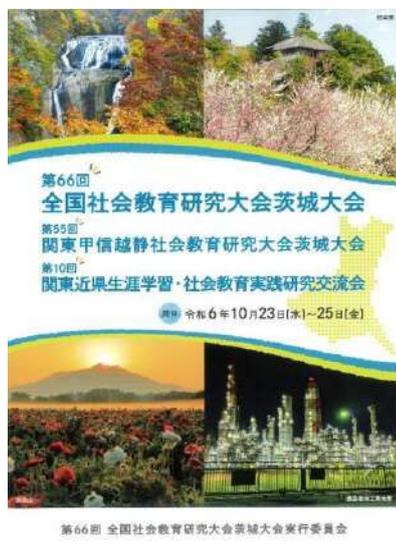
2 大会関係

大会等関係する行事等の開催につきましては、上記の「《大会関係》」のとおりであり、それぞれの行事等に社会教育委員または事務局職員が参加したところではありますが、その中の塩尻市の長野県総合教育センターで開催された「長野県社会教育委員連絡協議会総会及び講演会」と茨城県水戸市で行われた「第66回全国社会教育研究大会茨城大会及び第55回関東甲信越静社会教育研究大会茨城大会」について、若干触れさせていただきます。

令和6年6月12日に開催された「長野県社会教育委員連絡協議会総会及び講演会」では、松本大学大学院総合経営研究科の向井健准教授から「地域づくりと住民の学習」と題した講演がありました。

この講演では、「社会教育とは何か」、「公民館、その歴史と理念」などに触れ、若干、公民館活動に重点を置いた内容かとは感じましたが、社会教育についての理解を深める内容でありました。

また、令和6年10月24日から25日にかけて「彰往考来～人をつくり人をつなぎ地域をつくる未来の社会教育～」と題して開催された「第66回全国社会教育研究大会茨城大会及び第55回関東甲信越静社会教育研究大会茨城大会」には、初日の24日に出席させていただきました。



● 歓迎アトラクション

12:30～12:55

【水戸市立五軒小学校】



本大会の開催にあたり、水戸市立五軒小学校の児童による「偕楽園記」(水戸藩偕楽園の設立趣旨を記した長文です。)の暗唱で始まり、大会行事、記念講演、シンポジウムと続きました。

この大会は、大会名にあるように、全国大会と1都10県で構成される関東甲信越静大会が同時に開催されたものですが、来年度は、全国大会が岩手県盛岡市で、関東甲信越静大会が神奈川県横浜市で開催される予定です。

この大会は、水戸市立五軒小学校の児童による「偕楽園記」(水戸藩偕楽園の設立趣旨を記した長文です。)の暗唱で始まり、大会行事、記念講演、シンポジウムと続きました。

記念講演では、名字研究家の高信幸男氏による「あなたの知らない名字の世界～名字には隠れた日本文化がある～」という名字に関わる講演がありました。

その後、「子どもたちの成長を支えるために社会教育は何ができるか」をテーマにしたシンポジウムが開催され、各界からの4名の方々によるパネルディスカッションが開催されました。

持続可能な地域社会を形成していくためには、地域の人材を育成すること、また地域の人材が活躍できる場を設定することが重要と考え、これからの地域を担う人材として「子ども」に焦点を当てるなどの内容でディスカッションが行われ、改めて社会教育の範囲の広さ、定義の難しさを感じた次第です。

終わりにあたりまして、昨年度も同様に人口減少について記載させていただきましたが、去る2月1日の新聞記事によりますと、令和7年1月1日現在の長野県の人口は198万人余ということのようで、高齢化も進み、個人的な見解ですが、ますます社会教育の根幹である地域活動を支える方々の減少に伴う社会教育の衰退も懸念しております。

しかしながら、昨今の重大刑事事件の発生に鑑みますと、社会的な孤独が大きな発生原因ではないかと感じておりますので、地道な社会教育委員の皆様のご活動により、これまで以上に学びやすい地域、住みやすい地域、働きやすい地域、子どもを育てやすい地域が実現することが、地域社会の活性化につながり、ひいては社会的な孤独の解消につながるものと期待しております。

2 須坂市

1 須坂市社会教育委員について

○構成

社会教育関係者 3名 学識経験者 2名
学校教育関係者 1名 家庭教育関係者 2名 計8名

○任期

令和5年(2023年)6月1日から令和7年(2025年)年5月31日までの2年間

○活動実績

社会教育委員会議 2月

北信社会教育委員連絡協議会 理事(師岡 京子)

北信地区社会教育委員連絡協議会総会・地区研修会 参加

長野県社会教育研究大会 参加

地域ぐるみの共育フォーラム兼北信地区社会教育研究大会 参加

2 今年度の活動を振り返って 4名の委員より紹介します。

「実現した『通学合宿』」

須坂市社会教育委員 師岡京子

年々少子高齢化が進み学校・家庭・地域の繋がりが重要視される中、私達社会教育委員は通学合宿に大きな焦点を当てて参りました。

しかし、いろいろな事情もあり中々こぎつけずにいたところ、幸いにも25年度の共育フォーラムにて事例発表をして頂いた井上陽介さんと再び出会い繋がることができ、井上地域公民館を拠点に昨年7月16日から4泊5日の日程で実施された『須坂初!小学生×高校生「公民館通学合宿」』に協力という形で携わらせて頂くことができました。井上小学校4年生から6年生の26名、高校生19名、信大生、地域の方々(入浴提供)社会教育委員4名の総勢49名にて実行できたことに歓喜溢れるばかりでした。あくまでも高校生が主役となった企画は、県内でも初の試みということもあり、マス



コミでも随分注目されました。私達4名は、各日2名ずつ組ませて頂き、高校生の指導に基づき夕食作りの協力者としてお手伝いをさせて頂きました。高校生が子ども達一人ひとりに一生懸命接し指導する姿は何とも言えぬ暖かみを感じ、日増しに笑顔が溢れ楽しく触れ合う姿に大きな成果を感じる事ができました。参加した信大生も、我が小学校時に当時信大生だった井上さんと共に体験した経験を今度は自身でとの思いから参加されたとのことで、これこそ真の繋がりと嬉しく感じました。夕食時は、子ども達、高校生と食事をしながら会話が進み至福の時間を過ごさせて頂きました。そして最終日には、皆達成感から涙々でした。ここ数年コロナの為地域の活動も衰退してただけに、今回の活動には感動し後世を担う若者の行動力には期待と同時に頭が下がる思いでした。私達社会教育委員としても中々踏み切

れなかった活動だけに嬉しさと、一步前進できたことに喜びを感じ、仲間の一員として声を掛けて下さった井上さんには感謝に堪えません。今後もさまざまな繋がりを大切に、増々前進した共育の須坂市になることを願っています。

「つながりの重要性」

須坂市社会教育委員 伊賀雅志

最近感じることは、コロナ禍前にあった人と人のかかわりの機会が減ってきていることです。コロナ禍以前には、コミュニティスクールの組織が徐々に構築され、ボランティアの方々が学校に出入りするようになりつつありました。しかし、コロナ禍で中止を余儀なくされ、あれから4~5年がたった今、一端ストップしたものはなかなか簡単には復活できない現実があります。

それでも、例えば、日滝小では音楽会や運動会など、保護者のみならず、地域の皆さんにもご覧いただける機会をできる限りとろうと、会場を工夫し、座席を多くするなどしました。地域のお年寄から、「6年生の演奏がすごくて感動した」などの感想をいただき、子どもたちにとっても大きな励みになっています。また、今年5年生児童が理科の学習でバケツで稲を育て、その残ったわらをどうしようか考えたところ、正月のしめ縄づくりの活動につながることができました。そのきっかけは、学校から日滝地域公民館館長の田尻さんに相談したところ、元区長の永井さんに連絡がいき、すぐに講師(駒津造園さん)を紹介していただいたことからでした。おかげで、水田の少ない日滝地域の子どもたちにとって、非常に貴重な体験となりました。3年生も毎年「子どもやんしゃ」を通して、地域探険等でお力をいただいております。こういった地



【R6.12.14 須坂新聞】

域の皆さんとのつながりを大事にしていこうと、どの小中学校でも取り組んでいます。そして、地域の方にかかわっていただくことが、子どもたちにとっても大きな学び、言い換えると「ふるさと愛」につながっていくのだと思います。

私は、今年、社会教育委員ということで、人と人とのつながりの重要性について改めて学ばせていただく機会をいただきました。9月11日の長野県社会教育研究大会、10月19日の地域ぐるみの共育フォーラム(兼:北信地区社会教育研究大会)に参加させていただき、多くの方々がつながりを大切にしながら実践されていることを知り、改めて人と人とのつながりが、「こと」を動かしていくのだということを改めて感じました。是非、学校教育でも生かしていければと思っています。このような機会をいただいたことに感謝し、これからも研鑽を積んでまいりたいと思います。

「私達の活動」

須坂市社会教育委員 黒沢勝江

各種女性団体が一同に集まり「環境問題・男女共同参画」等考え行動する女性団体連絡協議会(以下女団連)を立ち上げてから約20年近くなります。

年間の活動として先ず資源ゴミ回収拠点のお手伝いです。以前は毎週土曜、日曜に当番制で受け付けており市民の皆様から大変喜ばれて多い日は50件以上の利用者様が来られます。又毎月第

一土曜日は、まだ着られる衣類、陶器等リユース品として預り年一回「もったいない市」を開催し販売しています。その時の売り上げた協力金の全額を災害にあわれた被災地に寄付をしております。

小学生の夏休みの一日に「エコ探検」を行い、高校生のボランティアもお願いし環境〇×クイズ・身近なものを使って工作、今年はペットボトルでけん玉作りと古いカレンダーでエコバックを作りました。カッターナイフを使うためケガには十分気を付け楽しく作り、早速けん玉で遊んでいました。又段ボールオープンでのピザ作りは生地からトッピングまで子供達の手作りで、スタッフの皆さんが汗だくで焼いてくれました。味は絶品である事間違いないです。

自らの学習のため年一回視察研修会を行っています。今年は紅葉の盛りの頃(株)エコネコル安曇野プラザのリサイクル工場を見学し、リサイクル意識を高め、エコサポートの運営に役立てる。

私達の活動は地球規模でとても意義のある活動と自負しておりますが各会員の皆様も、ご高齢になり退会されるグループもあり女団連を維持する事も難しくなってきました、20年前に女団連を立ち上げた先輩方の思い、努力を受けつないで行く事が私達に課せられた勤めかな、と思っています。

「高校生が支える通学合宿にふるさとの希望を見た」

須坂市社会教育委員 島田博雄

社会教育委員の委嘱状をいただき1年半が経とうとしています。行政マンとして長年お世話になったふるさとに、少しでも恩返しができるかと委員をお引き受けしましたが、はたして具体的に何をすれば期待に応えられるか悩む日々でもありました。

そんな折、昨年7月、意欲的な通学合宿の取り組みが市内井上地域において行われ、社会教育委員として、また、地域の大人の一人として、わずかですがお手伝いをさせていただく機会を得ました。

通学合宿の実践は社会教育関係の研修会等でもしばしば紹介されますが、この須坂初の取り組みの特徴は、何と言っても高校生によって支えられた合宿だったと言うことです。市内2校の高校生19人が自ら企画立案し、準備し、自らも高校に通学しながら4泊5日の合宿の運営、参加した26人の小学生のお世話や安全確保など献身的に取り組んでくれました。

小学生からすれば地域のお姉さん・お兄さんでもある高校生と勉強や寝食を共にし、直接触れ合う体験は、子どもたちの心に一生刻まれる夏の楽しい思い出となったことと思います。一方、高校生からすれば地域のかわいい弟・妹たちと過ごした得難い経験は、間近に迫った進路や職業選択にも活かされることと思います。今回、自発的に支えてくれた高校生や小学生の嬉々とした姿を目の当たりにして「須坂の未来も明るいな」と実感し、大変嬉しく思いました。



【須坂通学合宿 2024の様子】

この事業のために高校生と共に大変なご尽力をされた元地域おこし協力隊の井上陽介さん、事業実現のためご理解ご協力をいただいた学校や関係機関、地域の皆様等に改めて敬意を申し上げます。そして、支えてくれた高校生、応援してくれた大学生に心から感謝のエールを送ります。

地域の先輩である高校生と後輩である小学生との素晴らしい触れ合いの場、通学合宿を社会教育委員として、また、地域の大人の一人として今後も応援して行きたいと考えています。

3 中野市

中野市社会教育委員について

1 委員の構成

学校教育関係者 1名 社会教育関係者4名 家庭教育関係者 1名
識見を有する者 2名 公募委員 2名 合計 10名

・任期は、令和5年5月1日から令和7年4月30日までの2年間

2 令和5年度中野市社会教育並びに生涯学習活動実績

- ・中野市社会教育委員会議 2回(5月、3月(予定))
- ・北信地区社会教育委員連絡協議会総会・地区研修会 参加
- ・長野県社会教育委員連絡協議会総会及び講演会 参加
- ・長野県社会教育研究大会 参加
- ・地域ぐるみの共育フォーラム兼北信地区社会教育研究大会 参加

3 活動報告

今年度の社会教育委員の活動を振り返って

～社会教育委員としての“genteN”の取り組み～

中野市社会教育委員 高野美紗

私が社会教育委員として任を賜り、早2期となります。その間以前より個人で取り組んでおります県の「信州子どもカフェプロジェクト」に賛同し、始めた『お宮カフェ』の運営を2022年からさせて頂いております。それまでは、社会教育委員という活動を知らずにこのこどもカフェをやってきたわけですが、委員として携わらせて頂く中で、他市町村の委員の方々の活動や取り組みを知り、自身の活動が社会教育活動として機能している事を実感できました。

また、自身の活動を通して、運営する立場から他の活動や運営者の方々の懸念や課題が同じ目線から感じ取ることができ、それが自身の活動においてとても糧となりました。



さて、『お宮カフェ』の活動についてですが、今年で3年目を迎えます。これまで多くの方々の御理解、御協力、御尽力を頂きこれまで毎月休むことなく開催して頂くことが出来ました。活動を通して感じることは、“人との繋がり・温かさ・感謝”です。その前提としてあるのは、“生きたコミュニケーション”だと思います。私一人では正直ここまで続けるのは困難だった活動も、様々なコミュニティの場を通して人との繋がりを頂き、そこから派生し、また出来上がったコミュ

ニティで運営させて頂けており、大変ありがたく思います。

そして、3年目となった今後の目標や課題として、今ある繋がりを大切にしながら、「参加者同士のコミュニケーションや運営サイドと参加者とのコミュニケーション」、「他事業者様や企業様との新たな繋がり」、また当初より場所提供等で大変お世話になっている「自治体とのより深い相互理解と協力関係の構築」に尽力して行きたいです。さらに今年は、新たなこどもカフェの設置運営を計画しており、そちらの準備もこれまでの活動と並行しながら進めて行く次第です。

『お宮カフェ』の活動と並行して、昨年末、中野市生涯学習推進講座におきまして、自身が上映実行委員として関わらせて頂いております、環境問題についての自主製作映画『マイクロプラスチックストーリー～ぼくらが作る2050年～』の上映会を開催させていただきました。多世代の方々にご参加頂き、大変有意義な上映会となりました。社会教育委員と上映実行委員の両方の立場として、双方の関係者の皆様に感謝すると共に、ここでの繋がりからさらにまた別のコミュニティへの繋がりが生まれたことに、genteNとして大変嬉しくありがたいと思います。

最後に、自身の活動の屋号である“genteN”という言葉の意味についてですが、どんなことにも始まりはあります。物事を進めるうちに必ず躓きや目的・目標を失いかけてしまったりしますが、その時に戻る場所が、“原点”だと思います。そこから、活動を始めたきっかけを見失わない為に、常に“原点”を忘れずにしたいとの想いと、“元気”になれる“点”＝スポットから元と点を取って、“genteN”としました。

2つの活動を通して、今回改めて genteN の活動の意味やこれら活動を始めて、この屋号にしたことが良かったと改めて痛感しました。

4 飯山市

1 社会教育委員会議の組織(構成)について

構成	人数	任期等	社会教育関係団体への参画
学校教育関係	1名	・2年任期の2年目 (令和5年4月1日～)	飯山市美術館運営委員会 1名
社会教育関係	3名		飯山市図書館協議会 1名
学識経験者	3名		飯山市男女共同参画推進委員会 1名
合計	7名		

2 本年度の活動

- ・社会教育委員会議
定例会 3回(5月・10月・2月)
- ・各種研究大会・研修会等への参加
- ・夏休み体験教室「正受庵体験教室」の開催(市公民館と共催)

「社会教育委員のやりがい・手応えを感じて」

飯山市社会教育委員 藤木義博

市の公民館運営委員を拝命し、その後、合同した社会教育委員としての活動は10年を超えてますますやりがい・手応えを感じています。その一端を具体的に紹介していきます。

<飯山チームとしての初の活動>

大ホームラン(感動度)の活動としては、市の社会教育委員として全員参加のチームとして、定例以外の会議を開かせてもらい、企画、準備をして夏休み体験教室「正受庵」を開催、成功できたことです。人数的には少なくとも、親子参加があり、楽しかった、満足したとの感想が寄せられました。これには、藤田委員長の長年の思いとリーダーシップがあったこととそれを受けてどんなことを企画するかをゼロから熱心に論議したことが背景にあります。その中で一つのことに取り組む連帯感ができたことが成果としてあげられます。また市の社会教育関係の事務局・職員のみなさんのご援助があったことを記し感謝したいです。

<半世紀を超えた長年の社会教育への思いと足跡>

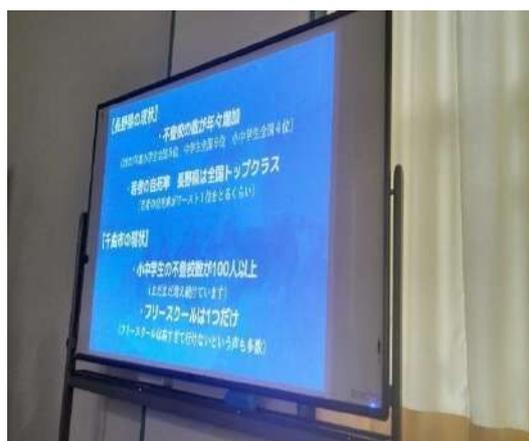
わたしは、たまたま大学時代に社会教育で全国的に有力な研究活動をされた複数の先生に巡り合い、社会教育の素晴らしい実践、可能性に惹かれていきました。この時の仲間は自治体の社会教育課や児童館、学童保育関係、学校と社会教育の橋渡し役などの分野で仕事をして地域や大学で活躍してきました。私は千葉の小学校教員として多忙な中でも地域のいろいろな諸問題に取り組む方に学びながら微々たるものですが実践してきました。子どもと現場教員が共に学ぶサマースクール的な「松戸ひまわり学校」を主に旧美麻村(現大町市)において20年近く連続毎夏おこなったことがありました。(1970年代後半から2000年代初頭まで。)2

泊から3泊し、民宿に分宿し最盛期は応募者が多く、2期に分け計子ども300名、教師40名、バス10台規模になりました。キャンプファイヤーの大きさは、受け入れ民宿の主のお世話もあり、ボーイスカウトの1万人規模参加の大きさと同じくらいのものになりました。炎が高く広くなり、あたり一面が明るくなり、電線に燃え移らないかヒヤヒヤするほどで子どもらもその大規模さと演出の見事さに感動しました。(この中山高原キャンプ場は、その後、NHK朝ドラ「おひさま」のロケ地となり、主人公がそこの広大な自然の中を自転車で走るシーンが放映されました。)そのような地域の子ども活動に係り続けることが生きがいとなって、移住後も居住の区や地域の青少年の活動や子ども食堂、山や自然活動に参加してきました。

<子ども・青年の自死や不登校ひきこもりへの有効な実践>を知る

最近の社会教育委員の研修会で、知った感動度大ホームランの事例を紹介します。「千曲市の不登校支援に課題を感じ長野県の若者の自死率が高いという現状から、(一社)オレンジファムを立ち上げ不登校支援や居場所づくりを行う。」中島壮太さん。この取り組みでは、千曲市のフリースクールがここ一つしかないこと、若者の自死ゼロをめざしていること、学習塾と子ども居場所づくりを同じ建物で、昼と夜をうまく使い分けて採算的にも成功しているという。実践者は、信州大の教育学部の出身で、自分が育った地元千曲市の小中学校でお世話になった先生たちと連絡を取り合い、協力協同し、不登校の子ども・青年の居場所づくりで実績を上げておられます。飯山では同じく地域と協力・協同し不登校の子ども・青年の自己実現を助ける「パームボイス」さんがあります。学校として、また青年の就職までを献身的に支えて社会人として成長させるという長年の素晴らしい実践があります。二つの事例とも、地域の方との協力協同で成長を図り、自信を得させることが見て取れます。地域の信頼を得て、実績を作り出している事例として今後も深く学んでいくことを誓い拙文を閉じます。

～北信社会教育研究会 中島壮太さんの発表より～



5 千曲市

1. 構成

委員の区分	人数(うち女性)	備考
学校教育	1名(0名)	校長会から選出
社会教育	6名(3名)	地区から選出
学識経験者	3名(2名)	
合計	10名(5名)	

2. 任期

令和6年4月1日～令和8年3月31日

3. 令和6年度事業報告

事業名	実施期日・会場	内容等
第1回 社会教育委員会定例会	令和6年5月17日(金) 市役所 会議室 302	・令和6年度会議・活動計画について ・社会教育関連組織・予算について ・所管施設の事業計画について 他
第2回 社会教育委員会定例会	令和6年7月12日(金) 戸倉創造館	・委員として取り組む独自活動について ・北信教育事務所との意見交換
第3回 社会教育委員会定例会	令和6年10月11日(金) 市役所 会議室 302	・所管施設の上半期事業報告について
千曲市成人式	令和7年1月12日(日) 上山田文化会館	・共催並びに臨席
第4回 社会教育委員会定例会	令和7年2月14日(金) 市役所 会議室 501	・令和7年度社会教育関連事業計画について

上記のほかに県・北信地区社会教育委員連絡協議会主催事業等へ参加。

「本と子どもたちを結ぶ」活動を続けて

千曲市社会教育委員 小林いせ子(読書アドバイザー)

1 読書推進活動の歩み

最近の現状として「読書離れ」そして、そこからの「活字離れ」は、学校や家庭において進むというより恒常的にあるといっても過言ではありません。さらに、複雑化してくる時代の中で子どもたちを取り巻く読書環境も年々変化をしてきています。読書は子どもたちにとって言葉を学び、新たな知識を身につけ、自分の世界を広げる大切なものです。同時に想像力、表現力を育て、さらに読書体験を積み重ねることで心が豊かに成長していくものであると思います。

昭和、平成、令和と続く時代の変遷の中で、子どもたちの読書がどのように変化してきたのか、また、それを取り巻く社会全体の読書推進活動はどのように変化してきたのか、日ごろ読書アドバイザーとしても活動をしている立場で記してみることにしました。

私がこの活動を始めたのは、約 30 年以上も前に更埴市立図書館から子どもたちへの読み聞かせのボランティアを依頼されたからでした。もともと読書好きの私にとっての図書館の小さな丸テーブルが私の活動のスタートの場所になったわけです。

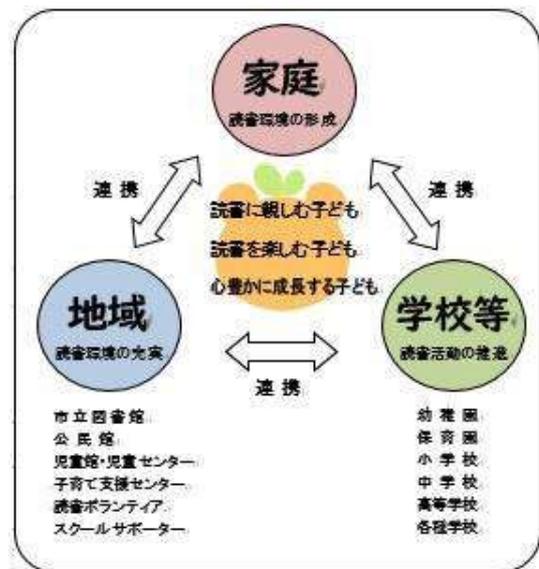
しかし、時代が進むにつれて子どもたちの環境はテレビやゲームなどの普及により興味に多様化がみられるようになりました。それに伴い、残念なことに学年があがるにつれ、本離れ、読書離れの割合が増えていく傾向もみえてきました。このような中でこれから成長する子どもたちが自ら読書に親しみ、楽しむにはどうしたらよいのか、試行錯誤をしながら様々な手段(読み聞かせ・アニメーション・ブックトーク・ビブリオバトル・紙芝居・人形劇など)を学び、読書アドバイザーや子育てのための絵本講師などの資格を取ることで、図書館で講座を開設し、子どもの読書に関する講演会を数多く持ちました。幸いに多くの仲間を増やし、17年前に「ちくまおはなしネットワーク」のグループを立ち上げ、今も読み聞かせなど読書推進の活動をつなげています。

現状として子どもたちのどの年齢においても「読み聞かせ」が最も子どもたちに人気があります。私は現在もボランティアとして幼稚園、保育園、小・中学校に数多く読み聞かせに入りますが、子どもたちの絵本、本に対する興味は尽きません。しかし、読書とともに成長の継続を考えると周りの関与が常に必要になると感じています。

2 千曲市立図書館との連携

国は、子どもの読書活動の取り組みを推進するため、平成13年12月に「子ども読書活動の推進に関する法律」を公布、施行しました。千曲市においても子どもの読書活動を支援するため、平成22年に第1次の「千曲市子ども読書活動推進計画」、平成27年に第2次、令和2年に第3次と計画を策定し、子どもの読書活動に取り組んでいます。

計画の策定で一貫しているのは、社会や家庭環境などの変化の中で、子どもの読書活動を推進するのは家庭・地域・学校等の連携が重要としているところです。具体的には家庭では読書の習慣を形成し、地域では

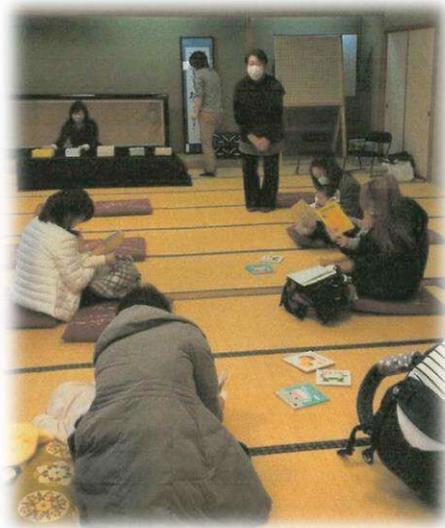


「千曲市子ども読書推進計画—豊かな感性と想像力を育む」の図を「第3次千曲市子ども読書計画」から転載

読書環境の充実、さらに、学校や保育園では読み聞かせなどの読書活動を進めていくことが、乳幼児期から大人になる成長するまでの継続した読書活動につながるものと思われます。

ところで、ほとんどの市町村で実施されていますが、千曲市も「家庭における読書活動の推進」の事業の中の乳幼児期からの読み聞かせの推進として「ブックスタート事業」に取り組んでいます。これは5冊の絵本の中から保護者に1冊選んでもらいプレゼントをする事業で7か月の赤ちゃんが対象です。ちなみに、これはファーストブックで小学校1年生でセカンドブックとしてのプレゼントがあります。

現在、私は読書アドバイザーとして更埴図書館と戸倉図書館において、絵本と子育てに関する助言をするとともに、読み聞かせの大切さを話したり、保護者の不安などに対応したりしています。保護者からの読み聞かせのプレゼントはこれから生きていくことへの土台にもつながります。さらに、絵本たちはすべて人々にエールを送り、人々を結ぶ大切な役目もあるのです。



5冊の絵本から選定中

3 子どもの読書活動のこれから

千曲市では平成17年度に文部科学省委嘱の「千曲市幼児教育支援センター事業」と関連付けて「心が育つ子どもの読書活動」を実践しました。様々な立場の方々がこの事業にかかわり、小学校部会、中学校部会、幼年部会を設け、読書活動の実態とこれからの課題、解決方法まで展開されました。私も幼年部会にかかわり、読み聞かせや読書を「心が豊かになる」ことに必要不可欠なものとして発信をしたものです。

以上のように、子どもたちへの読書活動は、子どもたちが読書を楽しみ、読書を通して心が豊かに育つよう、家庭・地域・学校など社会全体で子どもたちの読書を見守ることが必要になります。時代がどのように変化しようと幼い時期から本に触れ、読書の楽しさを体験することはこれからの人生を豊かにすることに間違いありません。

ここ数年、大人のための読み聞かせも始めています。「お話と音楽のコンサート」の題名でピアニストの方とのライブですが、聴いていただく方々の心が豊かになれますようお願いを込めて読んでいます。

6 坂城町

- 1 構成 学校教育関係者1名・社会教育関係者4名・家庭教育関係者2名
計7名
- 2 任期 令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)
- 3 活動報告 子どもリーダー研修会 (3月)
生涯学習審議会・社会教育委員会 合同会議 (2月)
ふれあい大学「川の学校」 (6月)
夏休み「町内企業見学会」 (8月)
長野県社会教育研究大会 (9月)
ウォークラリー大会 (11月)
人権を尊重し豊かな福祉の心を育む町民集会 (12月)

今年一年を振り返って

坂城町社会教育委員 上野 敬一

毎年、年度末に生涯学習審議会と社会教育委員の会議が行われる。この会議では、当年度の事業報告と次年度の事業計画について話し合いが行われる。会議の内容は、生涯学習、さかきふれあい大学、青少年関係、スポーツ推進事業、文化財、公民館事業、図書館など多岐にわたる。

そして年度当初に当年度の社会教育委員会議を行い、当年度の事業計画が協議される。

協議の内容は、北信、県の社会教育委員連絡会の事業日程や各種の研修会などの日程の説明と当町の社会教育委員連絡会として関わっている「坂城町青少年を育む町民会議」事業計画が主な内容である。「坂城町青少年を育む町民会議」は「教育部会」「育成部会」「環境部会」の事業部で構成され、社会教育委員はそれぞれの部会の事業に参加することにした。

教育部会は町内企業見学、育成部会は川の学校、ウォークラリー大会、環境部会は「健全育成啓発活動」である。私ともう一人の社会教育委員は「育成部会」の事業に参加することになった。「川の学校」では、かつては多くの釣り人が訪れ、坂城町は鮎釣りの名所として知られていたことなどの説明があった。この「川の学校」は千曲川の現状をしっかりとみってもらうことで故郷の川である千曲川を認識してほしいという、つけば事業者の熱意でもある。参加者は魚釣りや魚の手づかみを体験し、川魚の料理を味わう。この「川の学校」の事業がないかぎり千曲川の水に触れることもないだろうと思うと、本当に貴重な体験の場であると思う。

育成部会のもう一つの事業である「ウォークラリー大会」は町内27地区で構成される青少年健全育成会



の役員も参加して行われる。まず、児童に申込者を渡し、地区の育成会役員まで提出する。地区の育成会役員は申込書を取りまとめ、事務局へ提出する。

いよいよ本番。各地区の育成会役員もチェックポイントに立つ。参加者はポイントに設けられるクイズを解きながらコースを進む。今年は11月9日の開催であったが、天候にも恵まれ、絶好のウォークラリー日和であった。

さて、このごろ気になっているのが、地区のシニアクラブの存続が難しくなってきたことである。理由は役員の後継者が見つからないということで、今年度は休会となっている。確かに運転免許証を返納される高齢者が増えた。シニアクラブの役員となると、町や他地域との会議もあり、自家用車がないと不便である。また、こうした現状からシニアクラブに入会すると、役員をさせられるのではないかとの疑念から、いよいよ活動が困難となっている。今年の自治区の区民総会では、今後の存続も含めて検討していくことが確認された。

コロナ感染対策以降、みんなが集まる機会が減少している。この状態が続くと以前のような事業ができるのかと不安に思う。

今年のどんど焼きが1月12日に行われた。現在、地区の育成会を担当していることから、地区の小学校PTAの皆さんと打ち合わせを行い、これまではコロナ禍で、自宅で行っていたまゆだま作りは、児童全員が集まって公民館で行った。まゆだま作りが終わると、地区の伝統芸能の「新地太々神楽」を鑑賞した。午後には、道祖神のやぐらに火がつけられ、どんど焼きが始まった。

当日は、早朝から育成会役員がだるまやしめ飾りを集め、地区の役員総出でやぐらが組み立てられた。地区の「盆踊り大会」が、会場の確保が難しくなり、開催されなくなったことから、区民総出の催しものはどんど焼きのみである。子どもたちの笑顔や、家族が連れ立ってまゆだまをどんど焼きの火にかざしている姿は微笑ましい。

今年度の区民総会の議案書に、「今年度もシニアクラブ休会」との記載があった。シニアクラブの存続が難しければ、シニアクラブの形にこだわらず、高齢者も子どもたちも一緒に交流できる場所ができないだろうか。一人暮らしの高齢者が増えるなかで、気軽に集って交流できる場所をつくりたい。夏休みの子供たちのラジオ体操に高齢者も一緒に参加できないだろうか。

今そんなことをかんがえているところである。

7 小布施町

1 社会教育委員会の組織や活動について

(1) 社会教育委員の構成 委員 6 名

・学校教育関係者1名 ・社会教育関係者3名 ・家庭教育関係者1名 ・学識関係者1名

(2) 任期 令和6年4月1日 ~ 令和8年 3月31日

(3) 活動実績 社会教育委員会議 年3回 (4月・10月・2月)

各種研究大会・研修会への参加

子ども教室 田植え(5月) 夏のキャンプ(8月) 稲刈り・脱穀(9月)

通学合宿(9月) もちつき(12月)

2 今年度の社会教育委員の活動を振り返って

小布施町の社会教育

小布施町社会教育委員 池田 清栄

社会教育委員になって3年になりました。小布施町に暮らして35年になるのですが、勤めがずっと町外だったこともあり、小布施町の社会教育と関わる事がほとんどありませんでした。社会教育委員になり、手前味噌ですが、小布施町の社会教育の充実ぶりに感心しています。

公民館の講座も、スポーツ協会の活動も充実しています。私が直接かわるようになった子ども教室、小布施学園コミュニティスクールも、メンバーが前向きで積極的で、「地域の子どもは地域で育てる」という気持ちで満ち溢れています。協議会の一員として参加させてもらっている小布施町立図書館『まちとしょテラソ』も環境の良さに加え素敵な事業を毎年企画し、大変人気があります。

もう一つ協議会の一員として参加させてもらっている『おぶせミュージアム・中島千波館』は、1992年(平成4年)に開館しました。現代日本画家で小布施出身の中島千波さんの作品を常設展示する中島千波館、小布施の伝統文化財である祭り屋台を収蔵展示する屋台蔵、昨年名誉町民になられた金属造形作家の春山文典さんの作品を展示するコーナーやショップ、カフェがあります。建物だけでなく庭園の四季折々の花々や木々もとても素敵です。

中島千波館は、季節ごとに展示作品を入れ替えますが、中島先生の都合がつくと先生によるギャラリートークが行われます。先生のお人柄あふれるトークで作品に対する思いや制作時のエピソードなどを直接お聞きできる貴重な時間です。

今年度は中学生へのワークショップが企画され、7月に春山先生による鑄金のネームプレート作り、8月には中島先生によるスケッチワークショップが行われました。子ども教室の活動の一つに「能」がありますが、今年は町政70周年記念・第10回おぶせ能の能舞台に設置する鏡板の制作をコラボしました。大きな板に中島先生が下絵を描いてくださり、子ども達も一緒に着色をさせてもら



って仕上げました。3月のおぶせ能が楽しみです。

おぶせミュージアムでは「おぶせよもやま話」というミニ講演会も開催され「小布施町の龍」「小布施の旅人」など楽しく聞かせていただきました。また緒方泉先生の「博物館浴はリラックス効果がある？」という講演会も興味深いものでした。中学生や町内の皆さんが協力し、中島千波館での鑑賞前後に血圧・脈拍・心理状態などを計測しました。その結果、鑑賞後はリラックス効果を示す数値が出て、博物館を訪れることで健康増進と疾病予防、ウェルビーイングに効果がある・・・緒方先生は、この博物館見学による癒し効果を『博物館浴』と名付け、科学的に証明しようと研究されています。



町内には、おぶせミュージアムのほか北斎館など町民が徒歩で行ける博物館がいくつかあります。そんな恵まれた社会教育の環境に感謝しながら、これからも博物館浴を楽しんでいきたいと思っています。

公民館チャレンジ講座「書を楽しもう」

小布施町社会教育委員 吉池久美子

小布施町生涯学習「チャレンジ講座」の中で書道講座活動をしております。今までに5年間を「初心者書道教室」として活動してきました。手書きで書くことが少なくなった反面、手書きの字の人間味を求めることも出てきて、気軽さと身近な興味であるのか毎回受講者が減ることなく続いています。

6年目からは「書を楽しもう」とタイトルを変えて開講しました。内容的に少し深まったこと、創作の喜びを得ること、発表する楽しみも得ることに進み、楽しく参加することが目的です。令和5年度、6年度の2年間は「飾る書（インテリアの書）」として少字数作品に取り組みました。技術習得した後、自分の持つ創造力を出して、また何か形にしていける。出来上がった作品を飾って賞で味わう。飾った空間に雰囲気を作るインテリアの書になる。身近な所で書を取り入れて味わいたいと心掛けました。



小布施町には毎年総合文化祭作品展があります。ここに発表の場もありまして、励みややりがい、書友となった仲間と鑑賞し合い、コミュニケーションになります。長く続いたから出てきたこともあります。



町や地域で力を入れている書道大会やコンクールが二、三ありますが、こちらにも気持ちが向くことが出てきました。何かに挑戦するという大きな壁の前で、今まで自分のやってきたことが少しでも自信あるステップになっているとしたら拍手を送りたいです。自発的に大会にまでも気持ちが向いていることを大きく喜んでいます。取り組もうとする意欲を評価したいです。

自分のやることがある、仲間と共に向かうことがある、充実させたい、成功させたいと思うようになる。まだまだ現役と思える。とても良いことだと思います。生涯学習の一環として書道講座がよい活動になることを願っています。

公民館講座「小布施の魅力再発見 まち歩き」

『地元を知る』から『地元を伝える』に知識を広げ、仲間を増やし、人生をもっと豊かに！

小布施町社会教育委員 中村 千恵

私が勤務する観光案内所では、シニア層の方が地域の観光ボランティアとして活躍しています。観光案内所での地図を使ったスポット紹介やアクセス案内、観光客と共に町を歩いてガイドするなどの活動を通じ、町の魅力発信と地域活性化に貢献しています。より多くの方に参加していただきたく、育成・交流の場として2年前から公民館講座を開講しました。



1年目は町の歴史や文化を再発見し、地域への理解を深めることを目標にしました。小布施は栗どころ、地元の人なら当たり前のように知っている老舗栗菓子店でも、案外その歴史はよく知らなかったりするので、改めて老舗栗菓子店を巡り栗菓子の歴史やエピソードをうかがったり、昔の町並み写真と現風景を比較し町の変化を学んだり、観光ガイドとしての視点を広げるため、軽井沢まで足を延ばし他地域の活動事例を学びました。

2年目はより専門的な知識を習得し、観光案内やガイドの基礎を築きました。まず、小布施町の礎となった高井鴻山記念館を訪問し葛飾北斎と小布施町の関係、町の歴史を再確認。栗に次いで人気の地酒蔵元を訪ね歴史、文化を学ぶ。そして2年目は新潟県の弥彦神社を訪問し地元ガイドと交流。充実した案内手法、勉強方法を大いに参考にさせていただいた。そして最後はこれまで習得した情報を基に、実際に観光客に案内する体験をしてもらいました。小布施を楽しみに来た観光客に直接触れることで、地元への再評価と自分の案内が役に立っていることを実感したことで、より積極的に案内に取り組んでいる姿が印象的でした。



3年目を迎える今年は、これまでの学びを実際のガイド活動に活かしていくことを目標にしています。ガイドやコンシェルジュ業務は一見難しそうに見えますが、実際は楽しくやりがいのある活動です。地域の観光ボランティア仲間を増やし、交流の輪を広げ、観光客との会話を通じて新しい知見を得て、自身の成長につながることもなります。町の魅力発信を通じて地域貢献の達成感を得ることだってできます。そうすることで、生活にやりがいや充実感をもたらし、地域社会への関わりを深めることもできます。



案内所は駅舎の中にあります。観光して帰って来ると「言われた通りに行ってきたよ。楽しかったありがとう!」とわざわざ伝えに来てくれる方が大勢おられます。その時、案内した皆さんの嬉しそうな笑顔がこぼれます。シニア世代から何をしたいのか分からない、何ができるのか分からない、という声を時々耳にしますが、そんな方にはぜひ案内所に遊びに来てください!とお誘いします。百聞は一見に如かず、はつらつとした方が一人でも増えて輪がどんどん広がっていくのが楽しみです。

8 高山村 令和6年度社会教育委員の活動紹介

高山村社会教育委員会事務局 荒井 寛巳

○構成 学校教育関係者 1名 スポーツ関係者 1名 文化関係者 1名
家庭教育関係者 2名 共育コーディネーター 1名 計6名(うち女性2名)

○任期 令和5年4月1日から令和7年3月31日までの2年間

○活動報告

◆高山村社会教育委員会議(定例会5月・11月)

・今年度の任期の途中で、1名の委員が亡くなられたことにより欠員が生じています。

5月に第1回の定例会を開催し、今年度の生涯学習事業計画や行事を確認する。

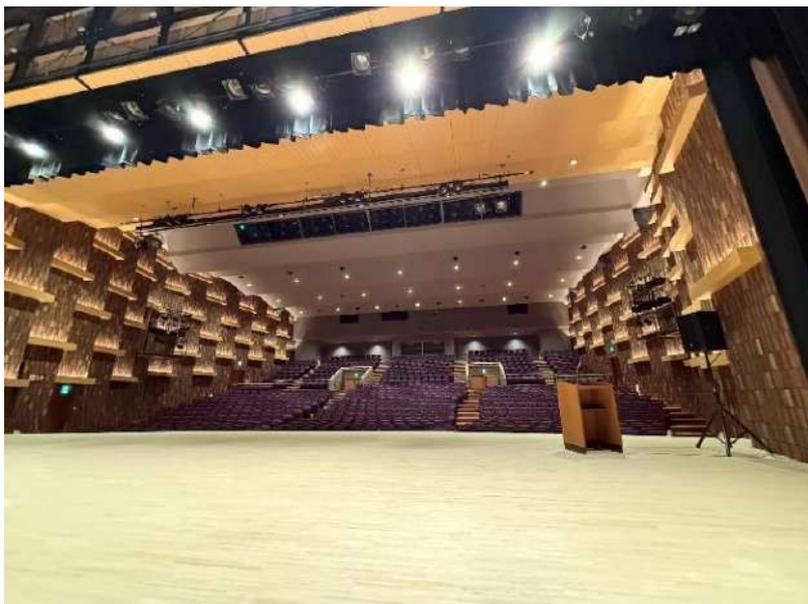
11月に第2回の定例会を開催し、今年度生涯学習計画の反省、来年度の計画目標を話し合いました。

◆高山村教育委員との合同研修会(11月21日)

合同研修会(当番:教育委員)では、中野市の公共施設を2箇所視察しました。1箇所目は、HUBLIC NAKANO(中野市子育て世代支援拠点施設)で、子育て支援施設として令和5年4月に開所した施設です。旧長丘小学校(令和2年3月閉校)を利活用したもので、季節や天候に関わらず、安心して子育てができる全天候型施設です。この施設は、幼児が遊ぶ遊具を年層毎に分けて設置するなど、仲間づくりや子育て情報の収集に一役買っています。

2箇所目は、令和6年5月にリニューアルオープンした中野市民会館「ソソラホール」を視察しました。新しい市民会館は、旧市民会館の耐震改修工事を行い、改修前のイメージを感じさせない施設に生まれ変わった印象を持ちました。施設は、大ホール(1)と小ホール(2)を中心に附属部屋が備わっており、各階にフリースペースが確保されている。夕方になると、入口のラウンジには学生が集まり、居場所づくりになっており、本村の公民館でも参考になると感じました。

本村では、公民館が老朽化しているため、改築か改修を行うのか長年検討してきましたが、本年度に長寿命化改修工事を発注しました。



【中野市民会館「ソソラホール」大ホール内部】



【ステージ上手天井には赤色の鉄骨が
改修前の構造が確認できます】



【ロビー 夕方になると学生の居場所になるそうです】

地域ぐるみで子どもの育ちを支える「わくわく村」

高山村社会教育員（高山小学校長） 神田 和幸

高山村では、教育ビジョンとして、「高山の自然や地域の人々とのふれあいを通して心豊かに自らの人生を逞しく切り拓いていくことのできる生きる力を持った子どもたちの育成」を掲げています。

VUCA とよばれる複雑で予測困難な時代を迎える中、「生きる力」は、学校校育はもちろんのこと、学校以外の様々な体験と相まって育まれるように思います。高山村には、この「生きる力」をはぐくむ環境づくりの一環として、「わくわく村」があります。

今年度で21年目を迎える「わくわく村」は、PTA や地域の文化協会、公民館と協働し、社会教育活動として推進しています。ホテルや星空の観察、古道や遺跡の探訪、工作や絵画教室、高山太鼓など例年の講座に加え、今年度はパラスポーツ体験や、ベトナム料理づくりなど新たな講座も開設しました。子どもたちは興味関心のある講座を選択し、親子で参加し、体験やものづくりを通して「学び」や「ふれあいの輪」を育んでいます。

参加した児童・保護者からは、「ハーバリウムをつくるのが楽しかったので、またやってほしい。」（1年）「わかりやすく教えてくれて来年もやろうという気持ちが多くなった。」（3年）「わくわく村のおかげで、ほかの人とふれあえたり楽しくやれた。」（6年）「子ども自ら興味のある講座を選んで参加できることや地域の方が講師をしてくださること（地域の方の活躍の場があること）にとても感謝。子どもの経験や興味の幅が広がったと思う。」（保護者）等の感想が届きました。

「わくわく村」を推進する運営委員会の合言葉は、「地域の大人が少し『ズク』を出して体験の場を作り、人のつながりや「大人の背中」を子どもたちが見て感じてほしい活動にする」です。日程や場所の調整、講師依頼、活動の安全確保など、運営には多大な労力がかかるわけですが、子どもたちの育ちを願い、「ズク」を出していただいています。そのような姿から、「地域の子どもは地域で育てる」思いが村の多くの人々の心に根付いていると感じます。これからも、「わくわく村」の活動が子どもたちの「生きる力」を育み、村の子どもたちが健やかに成長していくことを願っています。

9 山ノ内町

○社会教育委員の構成 6名

- ・社会教育団体 2名 ・学校関係者 1名
- ・学識経験者 2名 ・議会 1名

※任期:令和5年6月1日~令和7年5月31日(2年間)

なつやすみ自然たいけん教室

山ノ内町教育委員会 山本 啓将

山ノ内町では、8月5日(月)に「なつやすみ自然たいけん教室」を開催しました。毎年のように全国各地で台風や豪雨、地震などにより大きな被害が出ており、災害が起きたら私たちの生活に必要な不可欠である電気・ガスなどのライフラインが断たれてしまいます。このような事態に陥った時のために、次代の地域を担う子どもたちが防災について知り、学び、身につけることが重要と考えられます。体験したことが1つでも子どもたちの記憶に残り、災害時や日常生活の中でも応用できるようにすると共に、自然を大切にすることを育んでもらうことを目標に実施しました。

この「なつやすみ自然たいけん教室」には小学校1~6年生の子どもたち15名が参加し、まず最初に、はじめの会で自己紹介をして全員の顔と名前を確認しました。「なつやすみ自然たいけん教室」では下記のとおり5つの体験を行いました。

① マッチを使って、火をつけてみよう!

最初の体験では、危険と安全を学ぶため、マッチを使って新聞紙に火をつけました。理科の実験などでマッチを使ったことのある子もいましたが、初めての子も多く、火をつけられるようになるまで何度も挑戦していました。



② ロープを結んでみよう!

災害時に限らず様々な場面で役立つ便利なロープの結び方を2つ学びました。輪を作って杭状のものに引っ掛けるのが通常の使い方ですが、モノを対象物に結び付けるときにも使える「もやい結び」。もう1つはロープの張りを自在に調整でき、ただのロープが自在ロープのようになるためテントやタープの設営時に便利な「自在結び」。自在結びは、自在ロープの金具が壊れてしまった場合や紛失してしまった場合などの代用としても使えるため覚えておくと便利な結び方です。もやい結びはスムーズにできるようになりましたが、自在結びは少し難しく苦戦しました。



③ 防災ボトルを作ろう!

災害時に備え、防災グッズの用途を確認しながらドリンクボトルに数種類の防災グッズをセットしました。



④ お湯ポチャごはん(湯せん)と、火も水も使わないおかずを作ろう!

災害が発生すると、水が十分に使えなくなったり、ガスが使えなくなったりすることもあります。普段から保存しておける食材を使い、洗い物を減らし、できるだけ水を節約できるようにポリ袋を活用して、湯せんでご飯を炊き、長期保存できる食材を利用して食事を作りました。全員、上手に作る事ができ美味しく昼食を食べることが出来ました。



⑤ 大きな杉並木を歩こう!

最後は、町の天然記念物に指定されている、「興隆寺の杉並木」を歩いて通りました。「興隆寺の杉並木」は興隆寺の参道に片側 34 本、両側で 68 本の杉が数mの間隔で立ち並んでいます。樹高 25m、胸高直径 50~70cmの大木の並木は、日光をさえぎり厳粛な雰囲気をかもしています。全員で大きな杉の木を見上げながら楽しく歩くことができ、杉並木を通りお寺へ向かうと、住職にお会いし興隆寺の中にある県宝「木造阿弥陀如来坐像」を見せていただきました。住職より歴史についてのお話を聞かせていただき、とても勉強になりました。



「なつやすみ自然たいけん教室」は、防災の知識と自然の大切さを学ぶ素晴らしい機会となりました。災害時に役立つ知識として、火の扱いやロープの結び方、防災グッズの準備方法などを実践的に学びました。特に、洗い物を減らし水を節約する調理方法は、非常時だけでなく普段の生活でも応用できるので、子どもたちにとって貴重な経験になったと思います。また、興隆寺の杉並木を歩くことで、地域の歴史や自然の魅力にも触れることができました。こうした体験を通じて、子どもたちがたくさんの方に興味を持ち、楽しく学べるような活動を続けていこうと思います。

10 木島平村

1 社会教育委員の構成

委員5人(社会教育関係者3人、家庭教育関係者2人) 任期2年

2 活動について

月/日(曜日)	会議名	会場	内容
4/19(金)	第1回社会教育委員の会 (兼公民館運営審議会)	農村交流館	※公民館合同会議 ①令和6年度活動計画について ほか
11/27(水)	第2回社会教育委員の会 (兼公民館運営審議会)	役場会議室	※教育委員との合同会議 ①教育委員会への提言について ほか
3/下旬	第3回社会教育委員の会 (兼公民館運営審議会)	農村交流館	① 令和7年度事業計画について ② 令和7年度社会教育登録団体審査

○ 学校運営協議会

- 第1回 5/13(月) 令和6年度事業計画
- 第2回 7/5(金) C・S研修会 in 木島平内容検討
- 第3回 9/10(木) C・S研修会 in 木島平の反省会
- 第4回 12/17(火)
- 第5回 3/6(木)

○ コミュニティ・スクール推進委員会

- 第1回 5/23(木) 第4回 8/22(木) 第7回 12/5(木) 第10回 3/21(金)
- 第2回 6/6(木) 第5回 10/3(木) 第8回 1/23(木)
- 第3回 7/11(木) 第6回 10/24(木) 第9回 2/13(木)

- 8月31日(土) 第13回コミュニティ・スクール研修会 in 木島平 ※台風接近に伴い中止

○ 令和6年度新たな活動

- 6/20(木) ふれあい体験活動①(小学校)
- 8/21(水)~8/23(金) 大学合同ゼミ対応(保・小・中・高ほか)
- 11/7(木) ふれあい体験活動②(小学校)
- 11/9(土) 多世代交流会(農村交流館) ほか

3 活動の成果と課題

◆全体活動について

コロナの5類以降後、活動が縮小したままとなっている現状(会議や研修会しか参加していない)を打破すべく、社会教育委員としての本来の活動を考えていく1年となった。

学校運営協議会の地域連携コーディネーターも務める滝沢さんから、本年度は、体験活動や交流活動に社会教育委員を絡めていく話が進み、上記の新たな活動において取り組むこととなった。

委員相互から知恵とアイデアが飛び出し、活動自体のモチベーションも良く、次年度に向けて、コラボではなく、独自の活動を目指したいとなった。

◆実践(内容)について

- ・ふれあい体験活動(2回)は、小学校において設定された様々な体験メニューから、子供たちに、巻き割り、火おこし、餅つき、(餅の)味付け、(餅の)試食の一連を行うためのサポートを行った。
- ・大学合同ゼミは、大学の夏休み期間を利用し、これから教職員となる(目指す)学生に、あらゆる田舎を体験させるべく、滝沢さんが一からメニューを計画し実施しました。
学生たちが、勉強というよりは、これまで体験してこなかったことを経験することで、教職員になったときのアイデアやヒントの一つになればというねらいも含みつつの体験でした。
村内の保育園・小学校・中学校・高校の訪問し、園児・児童・生徒と触れ合うことはもとより、村内の施設、文化財をめぐったり、活動している人と対談したりすることも行いました。
得難い体験をした学生からの感想は上々で、今後も継続するかは大学側との調整となりますが、机上の勉強だけでは教えられないことがあることを体験できたようでした。
- ・多世代交流会は、社会教育委員、下高井農林高校、中学生、地域の子供、大人(シニア含む)が参加し、シイタケのコマ打ち作業をメインに、新米のおにぎり、多彩汁を提供した。
多世代となることから、親子だけではなく、おじいちゃん、おばあちゃん世代も入ることで、さらなる交流の場となった。

11 野沢温泉村

野沢温泉村社会教育委員会の活動の様子及び実践事例

○社会教育委員会の組織

構成:7名(学識経験者:5名・学校教育関係者:2名)

任期:令和6年4月1日~令和8年3月31日(任期2年)

○令和6年度活動計画

【村事業】

・社会教育委員会

回数	開催期日	内容
第1回	5月23日(木)	社会教育関連新年度事業について 重点課題の調査・研究の内容について 各種委員選出
第2回	8月21日(水)	重点課題の調査・研究
第3回	11月28日(木)	社会教育関連事業当年度報告

・研修視察:10月7日(月)~8日(火)

・野沢温泉学園運営協議会

・野沢温泉学園授業研究会

【会議及び大会参加】

・北信地区社会教育委員連絡協議会総会・地区研修会(於:信濃町総合会館)

・長野県社会教育委員連絡協議会総会及び講演会(オンライン)

・長野県社会教育研究大会(於:長野県総合教育センター)

・地域ぐるみの共育フォーラム(於:須坂市旧上高井郡役所)

○実践事例

【今年度の社会教育委員の活動を振り返って】

(野沢温泉村社会教育委員 宮崎 智子)

今年度、野沢温泉村の社会教育委員は2名のメンバーが入れ替わりました。なかなか活発で期待のおふたりです。

社会教育委員会で毎年実施している【重点課題の調査・研究】では、村の高台にある湯沢神社、健命寺、薬師堂について講義をしていただきました。そのほかの活動としては、研修視察、公民館行事への参加、ボランティアの会議などの活動の場が多かったと思います。

私個人としては、小学2年生との大豆づくりを3年前から行なっています。この大豆は、春にボランティアの方々に助けていただいて味噌になります。また、子ども達が叩いた豆がらは、毎年1月15日に行われる道祖神火祭りで社殿の中に入れられます。今は豆を作る家が減って、豆がらを集めるのが大変だそうです。こども園の年長さんも節分用の豆を作り、豆がらを贈呈しました。

畑やはぜを貸していただいたり、大豆を収穫したりと、たくさんの方とのつながりで活動ができています。



湯沢神社



健命寺



薬師堂

13 飯綱町

○ 社会教育委員の構成について

学校教育1名、社会教育3名、学識経験4名の計8名で構成されています。

任期は令和6年4月1日から令和9年3月31日の3年となっています。

○ 社会教育委員の活動状況について

委員会は年6回開催し、各委員からの日頃の活動状況の報告や当面の課題について協議しています。また、公民館事業や生涯学習（文化財関係含む）関係事業に広く関わり、これら事業に対する助言・提案などを行っています。

今年度、飯綱町で初の試みとして通学合宿に取り組みました。地域の子どもを地域で育てることが、どれほど重要で大変なことなのか実感しましたし、社会教育が関わる地域づくりの進むべき方向が見えたと感じた年でした。（事務局としてはそう感じました）

社会教育委員の皆さんには、それぞれの立場で参加いただきました。

○ 大会・研修会関係

- ・北信地区社会教育委員連絡協議会総会・地区研修会（信濃町総合会館）
- ・CSに関わる地域・行政のためのスキルアップ研修会（長野合同庁舎）
- ・長野県社会教育委員連絡協議会総会（オンライン参加）
- ・信州型CS推進セミナー（北信合同庁舎）
- ・長野県社会教育研究大会（長野県総合教育センター）
- ・地域ぐるみの共育フォーラム（須坂市旧上高井郡役所）ほか

町づくりは、総合力で

飯綱町社会教育委員長 小林 悦夫

東京での生活に終止符をうち、旧牟礼村（現飯綱町）に移住し50年になろうとしている。

知人の一軒家に間借りし、2年程した夏、激しい豪雨により家の裏の土手が崩落した。土砂は2階まで達し、極めて危険な状態で近くの姉の家に家族で避難した。やがて雨が止み現場を見に行った時だ。消防団をはじめ近隣の人達が体中泥まみれになり土砂の排除をしていた。近くの集会所では炊き出しが始まっていた。私は何も出来ず、ただただ「ありがとうございます」とお礼を言うしかなかった。今でもその時のことを思い越しながら、住民同士の助け合いの大切さを痛感している。「おめさん無事で良かったな。何も気にしないでいいからな」そう話しかけてくれた住民のみなさんの温かさを今も忘れない。

中学校での部活動が地域へ移行される。現在その準備が進められているが、関係する人達だけでなく、この町の住民全体の課題といえる。町には多種多様な能力を持った人達が沢山いる。その英知と力を発揮して進めることが出来たらと思っている。

何れにしても地域づくり、町づくりはそこに住む人達の総合力で進む。その一人であることを改めて自覚しなければと思う。

通学合宿に参加して

飯綱町社会教育委員 永原 英子

今年度、社会教育委員に任命され、「通学合宿」という言葉を初めて耳にすることになりました。各種社会教育委員の会議に参加すると、他市町村ではすでに実施されており、コロナ禍で中断したものをいつ復活させるかを検討しているとのことでした。

この通学合宿は、親元を離れて異年齢集団での共同生活を通して、協調性や自立心を養い、子どもの『社会力や生きる力の向上』を目的としています。大人たちの参画を促すことにより、地域の子どもは地域で育てる意識が高まるとされています。

飯綱町では、今年度初めての通学合宿が計画され実施されました。参加するスタッフも初めての中での取り組みは、事務局のご苦勞があったと思います。まずはやってみようという意気込みで社会教育委員として参加し、自分も初めての体験をすることとなりました。

子どもたちは、親でもない、学校の先生でもない見知らぬ大人たちと一緒に過ごし、食事をし、お風呂に入ることとなります。それは、保護者にとっては、運営者に信頼がないと送り出すことができないことと思います。それが実現できたということは、公民館のバックアップや、地域住民の拠り所である「お寺」が合宿地であったことが、その地域での信頼の高さが伺えました。

3泊4日という短い時間の中ですべての時間に関わっているわけではないので、子どもたち一人ひとりのことを理解することはできませんが、親元を離れること、テレビもゲームもない時間でも、仲間と遊んでいる姿、仲間と協力して食事を作っている姿、読書をする姿、などを目にして、大人の心配はどこへやら、子どもたちは皆楽しそうで、頼もしく見えました。

飯綱町の子どもたちが、飯綱町に愛情を感じ、大人になりいつか戻ってきてくれることを期待して、飯綱町の、飯綱町だからこそその「飯綱版通学合宿」が、今後も継続していかれるよう、地域住民として携わっていきたいと思います。

14 小川村

○ 社会教育委員の組織や活動について

(1) 社会教育委員の構成

学校教育関係者 2 名 学識経験者 3 名 計 5 名

(2) 任期

令和 5 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日 (2 年間)

(3) 活動実績

社会教育委員会議 年 6 回

各種研究大会・研修会への参加

小川の大地を巡る講座 3 回 (7 月、9 月、11 月)

通学合宿 (9 月)



【企画の打ち合わせの様子】

今年度の活動を振り返って

小川村社会教育委員 塚田綾子

社会教育委員として2年、未だ自信のないまま活動をしているような状態の私ですが、委員でできる人ができることをやり、チームとして目標を達成する経験ができ、学ぶことが多かった小川村社会教育委員の活動です。

昨年同様、各種研究大会や研修会等には可能な限り参加させていただき、微力ながらレベルアップになりました。他自治体の社会教育委員さんにも会い、その活動に感心し、刺激をもらいました。

他の活動として、社会教育委員が企画運営し実施した「小川の大地を巡る講座 災害一人一人の備え 3回シリーズ」を開催しましたので紹介します。

始まりのきっかけは、村民の方からの提案でした。「災害」について学びを深めるとして、社会教育委員会議で話しあい、3回のシリーズ「小川の大地を巡る講座」として企画、準備し開催に至りました。

この地域は昔から、地滑りが発生しており、食い止めるための大規模な工事や、滑った痕跡が残っています。地滑りはいつ発生するかもしれません。過去から学び、防災に役立ててもらいたいという思いとともに、座学、現地視察研修、関連機関や詳しい方々からの説明、防災に関するものづくり体験を盛り込んで3回の内容を組み立てました。対象者は、小学生から一般者とし、難しくなりすぎないように気をつけました。また、参加者には災害対策マニュアルと緊急用呼子笛を配布することにしました。

参加者アンケートをとり、今後の活動に参考にすることにしました。

令和6年度 小川の大地を巡る講座

全体テーマ「災害 一人一人の備え」3回シリーズ

災害は「いつ」「どこで」起こるか分からない。近年の自然災害が多く発生するなか、住民一人一人の「備え」には「物」「事」が必要です。そこで小川村公民館では、「小川の大地を巡る」で、災害の備え講座を社会教育委員会の企画により、文化的生活を改めて見直してみたいと考えています。

回	開催日	テーマ	講師
1	7月13日(土)	「地滑りや土砂崩れが起きる前に!!」 [国の登録有形文化財 薬師沢石橋水路工]及び[成就・上野地区 明和の大掛け跡地]を巡る	長野県土屋川砂防事務所 砂防担当者 上野地区在住 原 衛 氏(予定)
2	9月1日(日)	「電気・水が止まったらどうしよう?!」 「電灯普及から100周年」 「村営水道竣工から40周年」	小川村役場 防災担当者、水道担当者 (予定)
3	11月10日(日)	「ワークショップ・経験・体感」 「日頃から何を心がけたら良いか」 ※材料費 200円	小川村社会教育委員 (予定)

令和6年度 小川の大地を巡る講座「災害一人一人の備え」

第1回「地滑りや土砂崩れが起きる前に!!」

「国の登録有形文化財 薬師沢石橋水路工」及び「成就・上野地区 明和の大掛け跡地」を巡る
薬師沢流域上流は、明治以前に発生した弘化 4(1847)年「善光寺地震」の地滑りの影響から長年苦しんで来た。内務省(国)に砂防工事の依頼を行い、明治 19(1886)年に工事の着手が行われてから、130 数年が経過、現在まで引き継がれている「砂防施設」組織により維持管理がなされている。平成 21(2009)年に国の登録有形文化財に登録されました。成就から上野地区は、明和 5(1768)年「明和の大掛け」の発生により土屋川と瀬戸川が堰き止められ近年まで災害の影響があり、場所を確認しませんか。

開催日：令和 6 年 7 月 13 日(土)

時 間：午後 1 時～午後 4 時 30 分 受付開始 12 時 30 分から

場 所：小川村公民館 講堂 対象者：小学生から一般

講 師：長野県土屋川砂防事務所 砂防担当者、上野地区在住 原 衛 氏(予定)

参 加 費：無料 事前申込要 定員 40 名 申込は 7/2(水)公民館事務係まで

主 催：小川村公民館 企画・共催：小川村社会教育委員会

問合せ：小川村公民館 ※毎週月曜定休

TEL・FAX 026-269-2077 e-mail:komin@vill.ogawa.nagano.jp

定員 40 名
定員に余裕を確保して
させていただきます。

【講座のチラシ】



【災害対応マニュアルと緊急用呼び笛】

募集方法はチラシによる全戸配布と、防災無線での広報で行い、申し込み者は17名でした。

第1回は、長野県土尻川砂防事務所、薬師沢砂防惣代、村内在住の地質に詳しい方々に講師をお願いしました。座学で各場所での説明を受けてから、村内に残る、ニヶ所の地滑り跡地の現地視察へ行きました。

薬師沢は国の登録有形文化財に登録されている石張水路工です。規則正しく石が敷き詰め合わされた水路が続き、田畑があります。今日では遊歩道が整備され、季節の花々や、夏には蛍の飛ぶ姿も見られる場所です。長年地滑りに地域住民が苦勞してきた場所で、国の力も借りて大規模な水路工を整備することで土地が安定している地域です。その歴史は130年。整備されてからは多くの人々の命を繋いできたと感じます。現地視察の2箇所目は、「明和の大抜け跡地」。講師の方に、当時の地形図や史料をもとに跡地の説明をしていただきました。

第2回は、電気と水に思いを巡らす日です。この日は9月1日「防災の日」、午前中は村の避難訓練が予定されていましたが、巨大台風の接近により中止になりました。その影響か午後の企画への参加者は10名でした。この日の、現地視察研修は5箇所です。村営水道竣工から40周年で今も村内の水を供給している「成就浄水場」、小川村に初めて電灯の普及から100年。その電気を送電してきた歴史のあるタール漬け「木柱」、電気が通ったことで水車で役目を終えた「石臼の供養塔」、「旧上水電気発電所の資料館」、前回のテーマに関する明和の大抜け犠牲者の「供養塔」です。

小川村の歴史に詳しい公民館職員が、説明してくれました。座学の後、茶話会のような雰囲気です。気軽に対話をする時間を設けて、「いつ起こるか分からないから、こわい」で終わらないで備えるため、「危険なプレート・断層の上に生活していることを覚悟する」という言葉が残りました。

第3回は、経験・体験での3つのワークショップを準備しました。ここで社会教育委員はそれぞれ担当につき、アイデアを出し合い準備し「体験」を提供しました。

「地滑りの予兆を学ぶ対話式紙芝居」、「電気の簡単な仕組みと照明を強力にする実験」、「簡易キットを使い水の濾過実験」の3つを、参加者全員が体験できるようにし、会場内には防災グッズの展示も行いました。



【対話式紙芝居の様子】

社会教育委員は、どのようにしたら参加者に防災意識を保持し続けてもらえるかという意識の中で、現実的に自分たちの活動時間や実際に費やせる時間や労力を考慮し、本当に個人個人のアイデア、ご縁、能力、などを持ち寄って、地滑りの歴史から物語を作り、絵を描き紙芝居を作る方、手回し発電の道具の準備、小さな灯りを水の入った透明ペットボトルで大きな灯りにするための準備、濾過するための濁った水を作り、といった準備をしながら、防災について考える時間が多くもてました。社会教育委員として良い経験となりました。

15 栄村

栄村社会教育委員

□組織(構成)

栄村社会教育委員 4名

学校教育関係者 1名 社会教育関係者3名

□活動について

栄村の社会教育委員は、公民館運営審議会委員と文化会館協議会委員を兼ねており、生涯学習事業や公民館事業の計画や予算編成について協議・審議を行っています。

令和6年度は栄村社会教育委員会を計4回開催しました。近年、村の少子高齢化や急激な人口減少、社会教育委員会による活動も乏しく、社会教育委員会の解散も視野に入れた組織の見直しについて検討を進めてきました。

栄村は昭和31年に堺村と水内村が合併し発足しました。当時の栄村は 1,294 戸、人口 7,972 人で、令和7年1月1日現在の人口(1,560人)と比較すると約1/5まで減少しています。

社会教育委員は昭和24年に社会教育法が制定され、その歴史は栄村より長く、国では近年、社会教育法令の見直しが行われています。

現在の社会教育法に定める社会教育委員の職務としては社会教育に関する諸計画を立案すること、会議を開催し教育委員会の諮問に応じて意見を述べること、必要な調査研究を行うことと定められており、調査研究活動についての他地区の状況は、北信地区の社会教育委員連絡協議会で開催される研修等を通じて知ることができます。

しかしながら、当村の社会教育委員は多忙な方も多く、地理的条件も重なり、これら研修会への参加は限定的で、会を定期開催することが唯一の活動ともいえる状況でした。

そういった状況の中で、栄村社会教育委員会の役割について協議を行い、委員会を住民や地域が求める社会教育の姿を事業に反映するための協議の場とし、委員として自らの経験や知識を生かし、村内の社会教育事業に対する助言や協力を行っていくことと再確認しました。

これは社会教育法で定める社会教育委員の職務そのものですが、調査研究が中心に紹介され、これまではあまりクローズアップされていなかった部分でもあります。

栄村は2040年の人口を1,000人と予測しています。今後ますます人口減少が加速する中で、限られた資源で社会教育を進めていくために、「いままでどおり」や「前例踏襲」ではなく、地域の実情に応じた変化が求められていると実感しています。

緩やかにつながりから心地よさを感じる地域に

北信地区社会教育委員連絡協議会 事務局長 中澤 俊喜

今年も1年間のまとめ、振り返りの時期を迎えました。思い返せば今年もあっという間に1年が過ぎてしまった気がします。大したこともせずに、のらりくらりと過ごしてしまった自分は振り返っても何も出てきません。そんな私ですが、地域で心が温まったできごとを紹介します。

ある朝のことです。その日は同僚に職場まで一緒に車で乗せてもらう約束をしていました。待ち合わせの場所まで行き、朝の澄んだ空気の中、同僚の車の到着を待っていました。しばらくすると、向こうから小学生の男の子が1人で歩いてきます。5年生くらいでしょうか。近所の子なのに、どこの子なのかわかりません。だんだん近づいてきて、私の前を通りかかりました。私が「おはよう」って声をかけようとした瞬間、男の子も同時に声を出しました。「おはよう」と「おはようございます」が見事にシンクロしました。ご近所さんではあるものの、お互いどこの家のおじさんか、どこの家の子かも知らない間柄の2人の「おはよう」がタイミングよく重なったことで、思わず彼も私も目を合わせ、笑ってしまいました。笑いながら「ピッタリ合ったね。気をつけて行ってらっしゃい。」と私が言うと、彼もにっこり笑いながら「はい。行ってきます。」と言い、学校の方へ歩いて行きました。大したできごとではないのですが、こんな些細なことでも地域の子と自分がちょっとつながった感が生まれたような気がしました。今度あの子に出会ったら、「この前は『おはよう』が重なって面白かったね」って声をかけたいと思います。

社会教育委員のみなさまはこのような偶然起こる緩やかなつながりを、必然的に起こるように環境づくりや場の設定等、ご自身ができることを、できる範囲で行ってくださっていると思います。その日頃からのご努力に心より感謝いたします。社会教育委員のみなさまの取り組みによって、地域で人と人が温かく、緩やかにつながり、ちょっとつながった感を感じ、その心地よさが広がっていくのかと思います。大きな打ち上げ花火的な活動も大事ですが、日々の小さな、当たり前の取組が地域の中でじわじわ広がっていくことこそ大事なことだと感じています。

最後になりましたが、理事のみなさま、協議会を支えてくださった市町村の担当者の方のみなさまに感謝を申し上げ、事務局としてのまとめに代えさせていただきます。

一年間、ありがとうございました。

V 北信地区社会教育委員連絡協議会会則

- (名称) 第1条 本会は、長野県北信地区社会教育委員連絡協議会という。
- (組織) 第2条 本会は、北信地区市町村の社会教育委員をもって組織する。
- (目的) 第3条 本会は、北信地区の社会教育委員が相互に連絡提携し、その資質の向上を図り、北信地区の社会教育の振興発展に寄与することを目的とする。
- (事業) 第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。
- (1) 社会教育に関する研修会等の開催
 - (2) 社会教育に関する情報交換
 - (3) その他必要な事業
- (役員) 第5条 本会は、次の役員をおく。
- (1) 会長 1名
 - (2) 副会長 2名
 - (3) 理事 若干名
 - (4) 監事 2名
- (役員を選出) 第6条 本会の役員は、次の方法により選出する。
- (1) 会長および副会長は、理事の互選とする。
 - (2) 理事は、市町村の社会教育委員からそれぞれ1名(長野市は2名)を選出する。
 - (3) 監事は、総会において選出する。
- (役員の職務) 第7条 役員の職務は、次のとおりとする。
- (1) 会長は、会務を統括し、本会を代表する。
 - (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
 - (3) 理事は、理事会を構成し、会務を執行する。
 - (4) 監事は、会計を監査し、その結果を総会に報告する。
- (役員の任期) 第8条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。
 - 3 役員は、任期満了後でも後任者が決定するまでは、その職務を継続して行う。
- (顧問) 第9条 本会に顧問をおくことができる。
- 2 顧問は、理事会の推挙により会長が委嘱する。
 - 3 顧問は、会長の諮問に応じ意見を述べるができる。
- (総会) 第10条 総会は、会長が招集する。
- 2 定期総会は、年1回開催し、必要のある場合は臨時に開催することができる。
 - 3 議事は、出席者の過半数をもって決定する。
 - 4 総会は、次の事項を審議し、決定する。
 - (1) 事業計画および予算に関すること
 - (2) 事業報告および決算に関すること
 - (3) 会則の変更に関すること
 - (4) その他必要な事項
 - 5 総会の議長は、その都度決める。
- (理事会) 第11条 理事会は、必要により会長が招集する。
- 2 議事は、出席者の過半数をもって決定する。
 - 3 理事会は、会長が議長となり、次の事項を審議し、決定する。
 - (1) 総会に付議すべき事項
 - (2) 重要な会務執行に関する事項
 - (3) その他、会長が認めた事項
- (事務局) 第12条 本会の事務局は、北信教育事務所生涯学習課内におく。
- (経費) 第13条 本会の経費は、負担金、その他の収入をもってあてる。
- 2 負担金の額は、別に定めるところによる。
- (会計年度) 第14条 本会の会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。
- 附則 この会則は、昭和61年5月28日から施行する。
この会則は、平成8年5月23日から施行する。
この会則は、平成21年7月16日から施行する。

VI 令和6年度 北信地区社会教育委員名簿

○会長 羽田吉彦 ○副会長 小林京子 吉澤順子 ○監事 (齋藤 保・小林悦夫)

市町村	理事	委員					現在数
長野市	吉江速人 吉澤順子	吉江速人 長澤真一	吉澤順子 花柳呉峯	石坂晶子 福田典子	駒津美恵 細尾裕子	寺田裕子 米望和美	10
須坂市	師岡京子	師岡京子 嶋倉徳子	小林千鶴子 塚田和男	竹前美枝子 島田博雄	黒沢勝江	梅本裕之	8
中野市	増田正明	増田正明 阿部浩子	唐木敏行 仮屋慶一	長張茂樹 阿部恵子	高野美紗 藤澤重徳	阿部一博 丸山弘子	10
飯山市	藤田波留美	藤田波留美 前島憲一郎	藤木義博 栗山繁雄	村田忠久	柳 節子	東理恵子	7
千曲市	小林京子	小林京子 児玉みどり	小林いせ子 丑丸明英	窪田しおり 山崎友幸	寺澤憲一 柳澤正寿	大谷珠美 堀口強	10
坂城町	上野敬一	上野敬一 池田 隆	宮原広美 宮澤 宏	上條昌夫	高井資昌	中澤仁子	7
小布施町	池田清栄	飯田岩雄 吉池久美子	池田清栄	久保田智子	中村千恵	前田博展	6
高山村	黒岩裕子	黒岩裕子 神田和幸	藤沢秀雄	黒岩清道	林部和昭	姉川久見子	6
山ノ内町	羽田吉彦	羽田吉彦 湯本清人	高田佳久	山口 近	小林幸子	湯本長子	6
木島平村	滝沢良一	滝沢良一	岩井眞里子	外山珠代	佐藤富貴子	山崎智恵美	5
野沢温泉村	嶋田孝至	嶋田孝至 雪入哲也	富井達之 石原英樹	宮崎智子	池田順子	杉山 僚	7
信濃町	二本松三雄	二本松三雄 渡辺 誠	雪入勝彦	中山智代子	須坂はるみ	風間 純子	6
飯綱町	小林悦夫	小林悦夫 西林 薫	永原英子 柳澤立子	上野千野子 桑原文彦	大川千恵子	小林浩道	8
小川村	花田隆夫	花田隆夫	塚田綾子	田中千香	塩崎正昭	小林浩一	5
栄 村	齋藤 保	齋藤 保	齊藤 隆	山田知周	杉浦恵子		4

合計 105

事務局長 中澤俊喜 事務局員 菅原勇介

事務局 北信教育事務所生涯学習課内 TEL026-234-9552(直通)

あとがき

北信地区社会教育委員連絡協議会
副会長 吉澤 順子(長野市)

北信地区の副会長として2年目を終えようとしています。2年経験をしてみて、やっとこの連絡協議会の意義や活動内容、そして社会教育委員の役割等が分かってきたなど感じます。この協議会に集う15の市町村ではそれぞれの取組があります。そして「独任制」が特色の社会教育委員ということを考えて、人数分の取組があるのではないのでしょうか。その会合の様子と北信地区15市町村における社会教育委員の活動を紹介したのが、本誌「地域・人・かかわりを求めて」第38集です。各地域での活動とその実践報告をお寄せいただきましたことに感謝いたします。

その一端を学ぶことができるのが、9月に行われた「県研究大会」、10月に須坂市で行われた「地域ぐるみの共育フォーラム 兼 北信地区社会教育研究大会」、そして、この「活動情報誌」です。県研究大会については、中野市の発表資料や小林副会長の感想の頁をお読みいただければ、その様子を感じられるのではないかと思いますので、ここでは地域ぐるみの共育フォーラムでの私の学びについて触れたいと思います。

全体講演ではなおやマンさんが「機会と力を活かして、笑顔を広げる」ということをご自身の実践をもとに伝えてくださいました。分科会では私は第1分科会に参加しオレンジファムの取組から、子どもたちの居場所や学校外での学びの可能性について学びました。発表者の中島さんはまだ若く、このような若者の挑戦を社会教育に関わるものとして応援したいとの思いが強くなりました。きっとそれぞれの地域で年齢、性別に関係なく様々な挑戦をしてる人がいるのだと思います。私たちは社会教育委員という立場も生かしつつ、それを自覚し、そのような方の取組を見つけること、知ることが大事だと思うのです。そのためには、積極的に外に出て現場と関わること、そのような事例と出会えるような研修等に参加すること、そして何より身近な社会教育委員同士で情報を交換したり、自身の取組と重ねて考えたりすることではないでしょうか。それが社会教育委員のもっとも大きな役割である、「調査・研究」そのものだと思うのです。この活動情報誌もそのきっかけとなることを願っています。

社会教育で取り組むべき範囲は大変広く、そこに「独任制」です。自由度が高いからこそ、かえて「何をしたらよいのかよくわからない」という委員の声もよく理解できます。そのような声に対する一つの道標としてこの活動情報誌がみなさんにご活用いただけることを願っています。

令和7年2月吉日